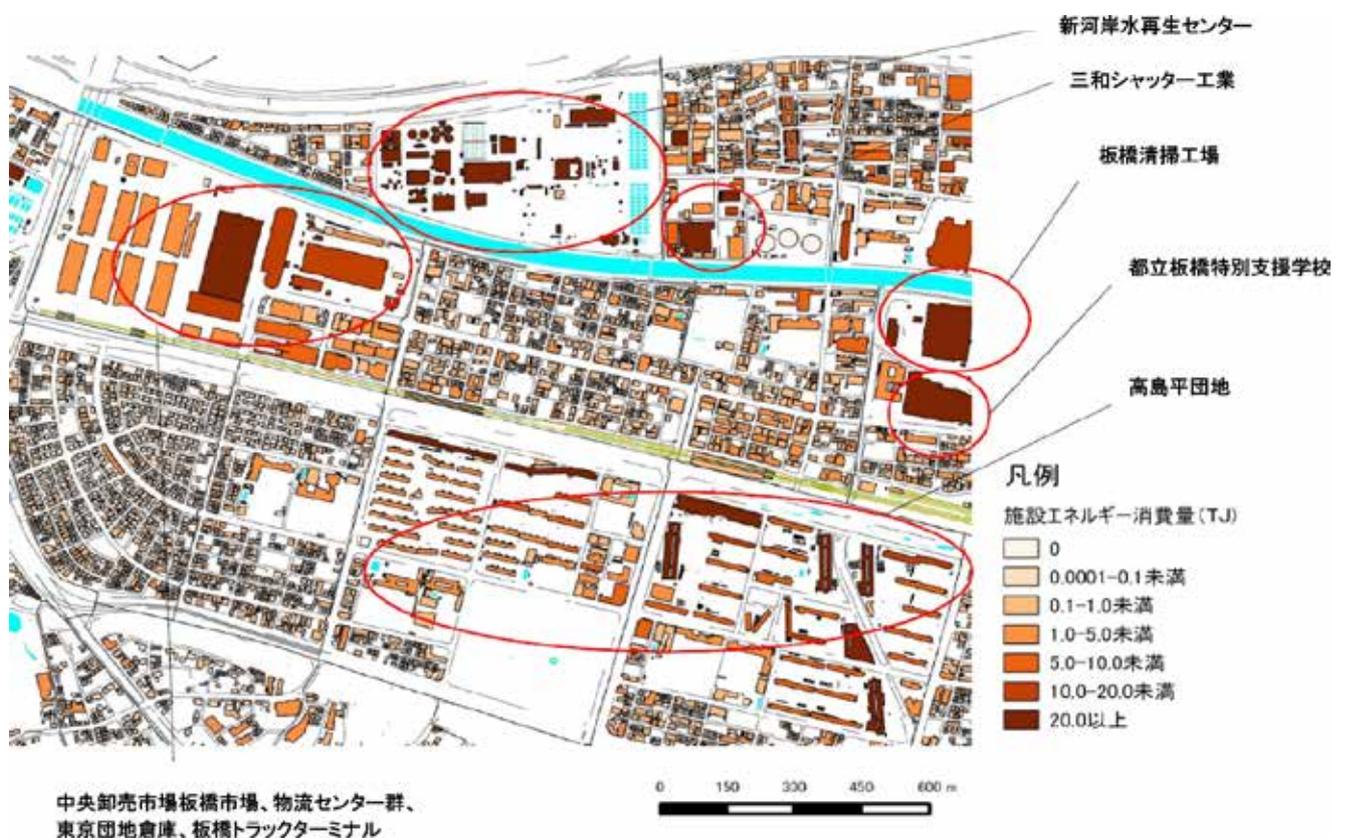


9 エネルギー需要

- ・高島平二丁目は、家庭部門のエネルギーについて、電気・熱ともにエネルギー消費の多い地域です。これは大規模団地等の集合住宅が多い地域であるためと考えられます。
- ・高島平九丁目には清掃工場、新河岸三丁目には水処理施設があり、板橋区内でも業務部門の熱需要が高くなっています。
- ・高島平地域には「中央卸売市場板橋市場」、「東京二十三区清掃一部事務組合板橋清掃工場」、「東京都立板橋特別支援学校」など多くの熱需要施設があります。



図：新河岸水再生センター・高島平団地周辺 建築物熱需要詳細マップ

出典：板橋区スマートシティ検討調査報告書（板橋区・平成26年7月）

表：特定業務施設熱エネルギー需要一覧（平成23年度実績）（抜粋）

事業所名	所在地	熱需要 (TJ)	施設型式	燃料種	年度間 総使用量	単位	燃料種別 熱量(TJ)
東京二十三区清掃 一部事務組合 板橋清掃工場	高島平 9-48-1	2649.78	都市ゴミ(連続)	電力	0.0	kWh	0.00
				都市ゴミ(清掃工場以外)	0.0	t	0.00
			その他乾燥炉	都市ガス(13A)	66.6	km3	2.73
			その他乾燥炉	都市ガス(13A)	0.0	km3	0.00
			貫流ホィー	都市ガス(13A)	8.9	km3	0.36
			都市ゴミ(連続)	都市ガス(13A)	96.6	km3	3.96
				都市ゴミ(清掃工場)	71949.9	t	1295.10
			都市ゴミ(連続)	都市ガス(13A)	131.5	km3	5.39
都市ゴミ(清掃工場)	70522.6	t		1269.41			
都市ゴミ(連続)	電力	6534.6	kWh	0.02			
	都市ゴミ(清掃工場以外)	4044.8	t	72.81			
東京都下水道局 新河岸水再生セン ター	新河岸 3-1-1	1881.09	炉筒煙管ホィー	灯油	0.0	kl	0.00
				都市ガス(13A)	873.8	km3	35.83
			下水汚泥	下水汚泥	52302.0	t	784.53
				都市ガス(13A)	940.8	km3	38.57
			下水汚泥	下水汚泥	34493.0	t	517.40
				都市ガス(13A)	532.9	km3	21.85
			下水汚泥	下水汚泥	32194.3	t	482.91
				都市ガス(13A)			
第一硝子株式会社	舟渡 2-9-8	527.42	ガラスタンク炉	A重油	0.0	kl	0.00
				都市ガス(13A)	4291.2	km3	175.94
				ソーダ硝子(並)	29062.0	t	0.00
			ガラスタンク炉	A重油	0.0	kl	0.00
				都市ガス(13A)	6117.3	km3	250.81
				ソーダ硝子(並)	28674.1	t	0.00
			ガラスタンク炉	A重油	1258.7	kl	50.35
				都市ガス(13A)	1227.5	km3	50.33
				ソーダ硝子(並)	10367.0	t	0.00
日本金属株式会社 板橋工場	舟渡 4-10-1	489.90	その他金属加熱炉	都市ガス(13A)	599.5	km3	24.58
			ガス機関(常用)稀薄燃焼	LSA重油	82.1	kl	3.12
				LSA重油	9465.3	km3	388.08
			その他金属加熱炉	電力	1645.9	kWh	0.01
			焼鈍(連続)	電力	0.0	kWh	0.00
				その他(電気炉)	0.0	kWh	0.00
			焼鈍(連続)	電力	791.1	kWh	0.00
			焼鈍(連続)	電力	3450.0	kWh	0.12
			その他金属加熱炉	電力	2758.5	kWh	0.01
			その他金属加熱炉	電力	951.7	kWh	0.03
			その他金属加熱炉	電力	30.7	kWh	0.00
			その他金属加熱炉	都市ガス(13A)	0.0	km3	0.00
			その他金属加熱炉	都市ガス(13A)	1270.0	km3	52.07
			その他金属加熱炉	電力	4056.1	kWh	0.01
その他金属加熱炉	都市ガス(13A)	536.8	km3	22.01			
新日本製鉄株式会 社 鋼管事業部 東京製造所	舟渡 4-3-1	258.85	連続式鋼片加熱	都市ガス(13A)	1782.7	km3	73.09
			焼鈍(連続)	都市ガス(13A)	0.0	km3	0.00
			焼鈍(連続)	都市ガス(13A)	615.8	km3	25.25
			連続式鋼片加熱	都市ガス(13A)	3101.7	km3	127.17
			焼入(連続)	都市ガス(13A)	71.1	km3	2.92
			貫流ホィー	都市ガス(13A)	371.0	km3	15.21
			貫流ホィー	都市ガス(13A)	371.0	km3	15.21

出典：板橋区スマートシティ検討調査報告書（板橋区・平成26年7月）

(1)板橋清掃工場(早稲田大学 堀助教「都市環境エネルギー協会調査研究成果普及発表会資料(H26.7)」)

- ・当該資料において、板橋清掃工場の排熱利用可能熱量の想定がされています。
- ・清掃工場排熱の利用可能熱量は、発生熱量のうち「工場内使用熱 20.9%」、「損失熱 30.0%」とし、さらに「電力」、「給熱」の実績値を引いた残りを「未利用分」として算出し、更に、有効エネルギーを考慮し、「利用可能熱量」が求められています。
- ・その結果、「未利用分」のうち30%が外部利用可能な熱量として「利用可能熱量」となっています。



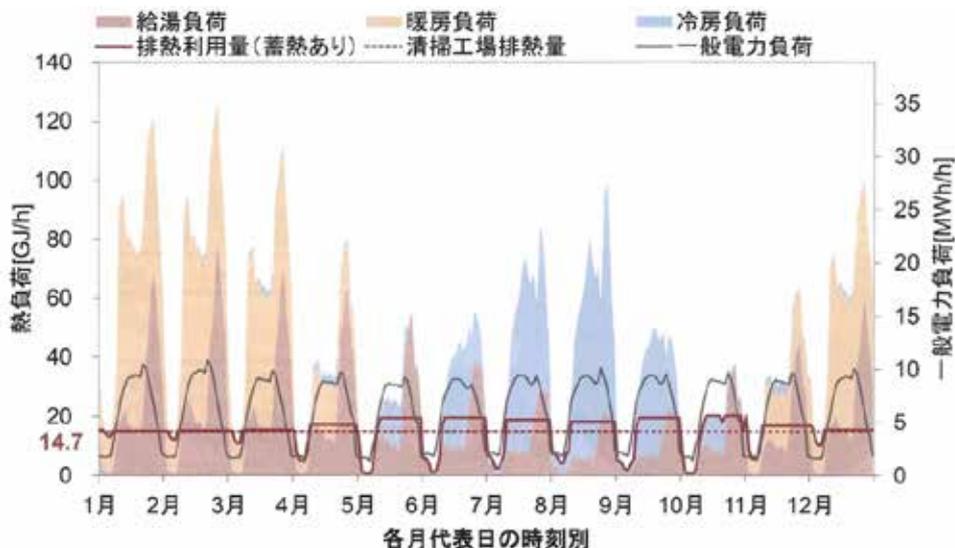
※「工場内使用」と「損失熱」の割合は、23区清掃工場の平均値を、「電力」と「給熱」は、平成23年度の板橋清掃工場の実績値を用いた。

参考文献: 平成23年度清掃工場作業年報、東京二十三区一部清掃事務組合
「清掃工場における高効率熱利用について」加藤征彦(日立造船)、衛生工学シンポジウム論文集、1993.11

図：排熱利用可能熱量の想定

- ・また、高島平団地における熱需要と清掃工場排熱量との比較においては、清掃工場排熱の9%を熱供給に使用することで、対象地区の年間熱負荷の33.6%をまかなえ、その時の想定した未利用分排熱の有効利用率は年間を通じて100%使用可能となる(蓄熱利用あり)という結果を得ています。

グラフ：排熱利用可能熱量の想定



(2)新河岸水再生センター

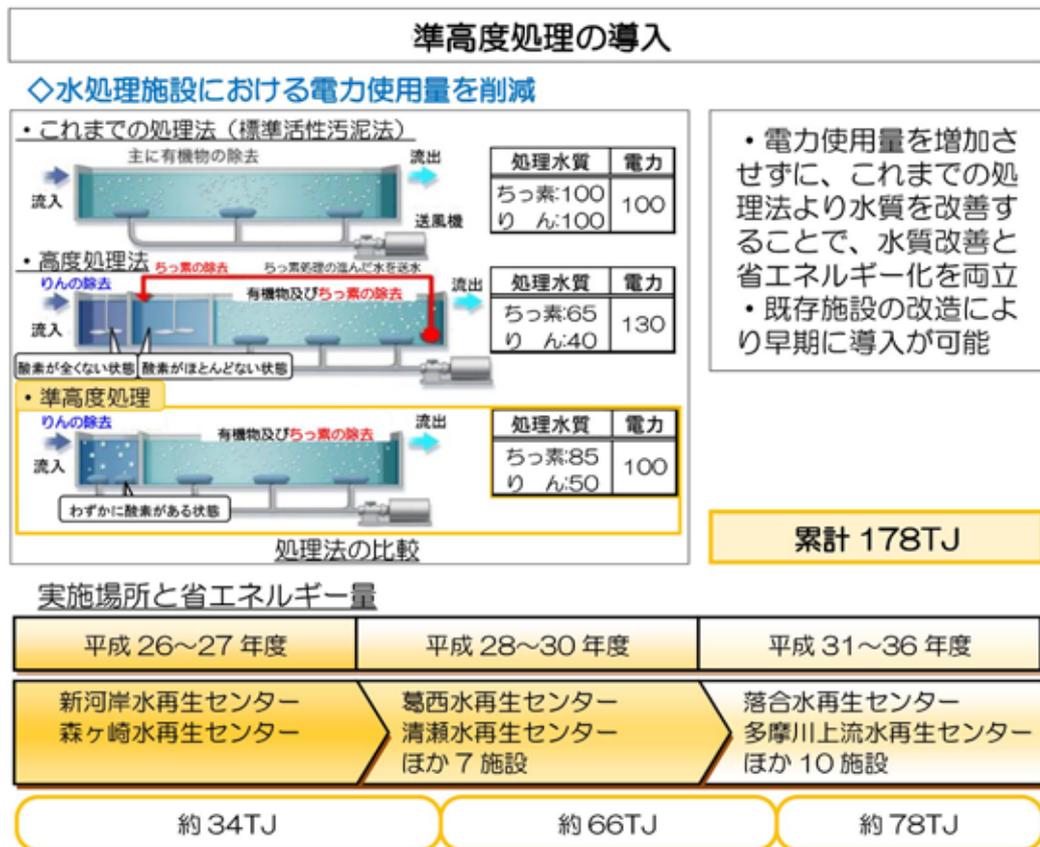
- ・「下水道事業におけるエネルギー基本計画 スマートプラン 2014（東京都下水道局 H26.6）」によると、取り組み方針に従い、下水道事業におけるエネルギー活用的高度化及びエネルギー管理の最適化を図っていくとされています。
- ・取り組み方針の一つとして「再生可能エネルギー活用の拡大」が上げられており、太陽光発電や未利用の汚泥焼却時の低温域廃熱を活用した新たな発電など、再生可能エネルギーをより一層活用し、下水道事業において可能な限り自らエネルギーを確保するために、様々な取り組みを実施していくとされています。
- ・新河岸川水再生センターでは、平成28～30年度に廃熱による発電の効果を最大限発揮するため、汚泥を安定的に優先して焼却する炉を導入することが予定されています。



- ・「超低含水率型脱水機」で水分量を一層削減した脱水汚泥を、「エネルギー自立型焼却炉」で焼却した廃熱により発電するエネルギー自立型焼却システムを開発・導入
- ・廃熱による発電の効果を最大限発揮するため、汚泥を安定的に優先して焼却する炉を導入

実施場所と再生可能エネルギー量		累計 41TJ
平成 26～27 年度	平成 28～30 年度	平成 31～36 年度
技術開発	整備工事 (新河岸水再生センター ほか 2 か所)	新河岸水再生センター 葛西水再生センター 南部スラッジプラント
—	—	約 41TJ

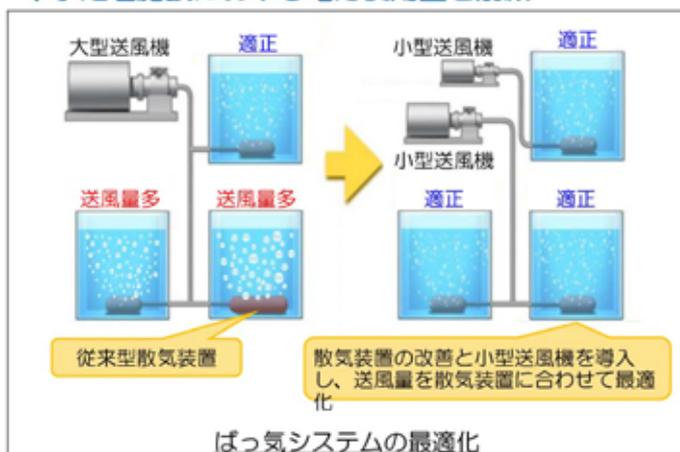
- ・その他の取り組み方針として「省エネルギーの更なる推進」が上げられており、新たな高度処理技術やエネルギー自立型の焼却システムの開発・導入などを進めることで、省エネルギーをさらに推進し、エネルギー使用量を削減するために、様々な取り組みを実施していくとされています。
- ・新河岸川水再生センターでは、平成26～27年度に電力使用量を増加させずに、これまでの処理法より水質を改善することで、水質改善と省エネルギー化を両立することを予定しています。これは、既存施設の改造により、早期に導入が可能であるとされています。



- ・また、平成31～36年度には、小型送風機を導入し、反応槽に対して個別に配置するなどして、送風量を散気装置に合わせて最適化することにより、電力使用量を削減したり、重力を利用し、ろ過濃縮する濃縮機や外径を大きくすることで遠心力を高めた脱水機などの導入により、必要なエネルギーを少なくすることで電力使用量を削減する機器の導入が予定されています。

ばっ気システムの最適化

◇水処理施設における電力使用量を削減



小型送風機を導入し、反応槽に対して個別に配置するなどして、送風量を散気装置に合わせて最適化することにより、電力使用量を削減

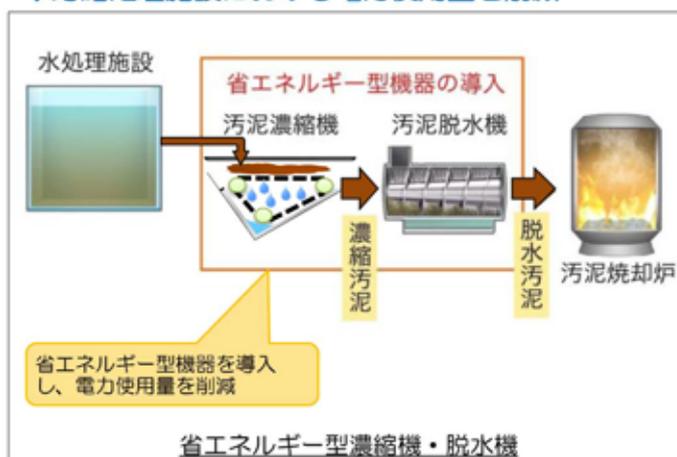
累計 69TJ

実施場所と省エネルギー量

平成 26~27 年度	平成 28~30 年度	平成 31~36 年度
葛西水再生センター 多摩川上流水再生センター ほか 3 施設	葛西水再生センター 新河岸水再生センター ほか 3 施設	新河岸水再生センター 森ヶ崎水再生センター 葛西水再生センター
約 24TJ	約 16TJ	約 29TJ

省エネルギー型濃縮機・脱水機の導入

◇汚泥処理施設における電力使用量を削減



重力を利用し、ろ過濃縮する濃縮機や外径を大きくすることで遠心力を高めた脱水機などの導入により、必要なエネルギーを少なくすることで電力使用量を削減

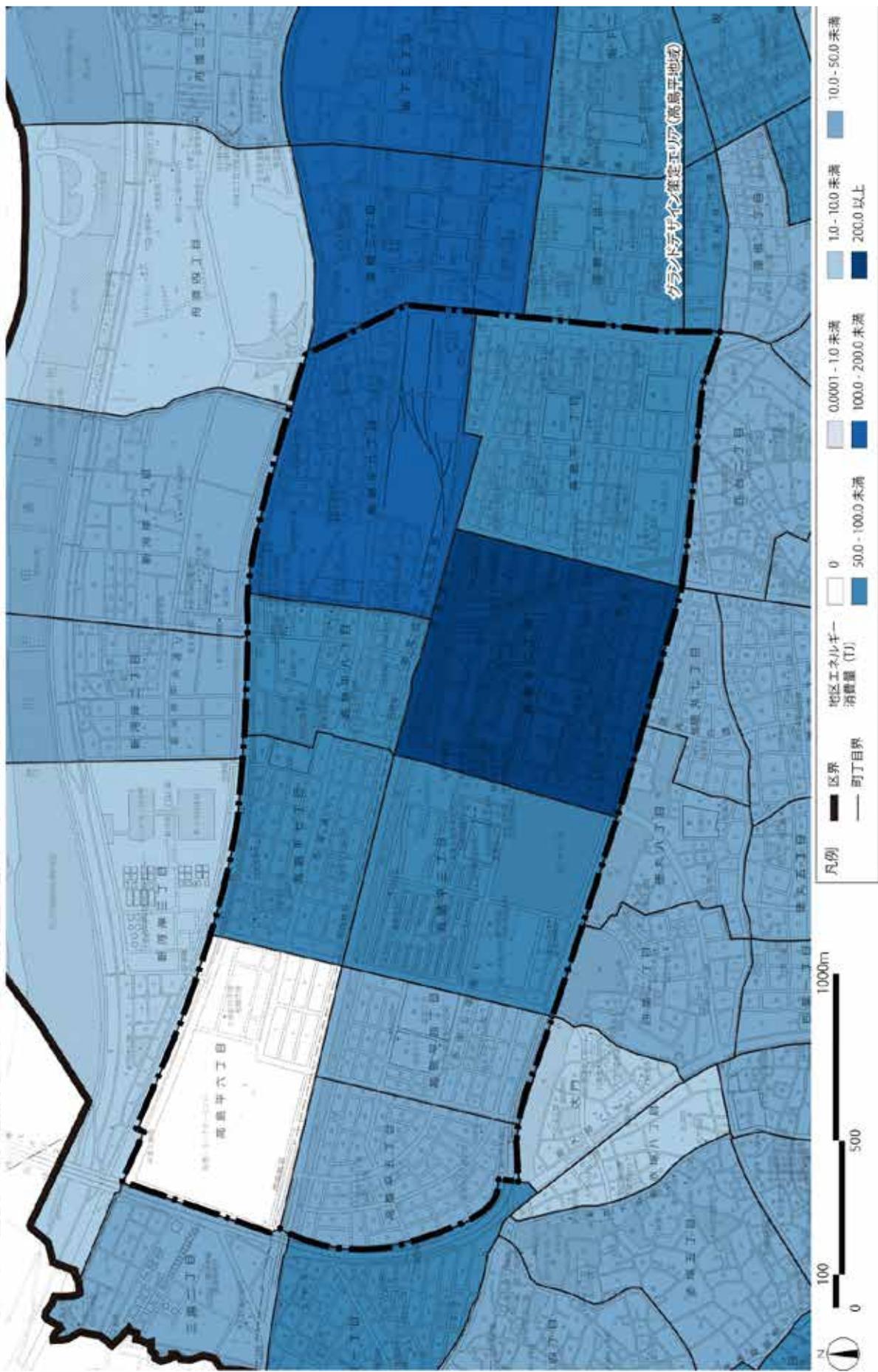
累計 37TJ

実施場所と省エネルギー量

平成 26~27 年度	平成 28~30 年度	平成 31~36 年度
東部スラッジプラント 多摩川上流水再生センター ほか 2 か所	みやぎ水再生センター 南多摩水再生センター ほか 5 施設	新河岸水再生センター 八王子水再生センター ほか 8 施設
約 16TJ	約 3TJ	約 18TJ

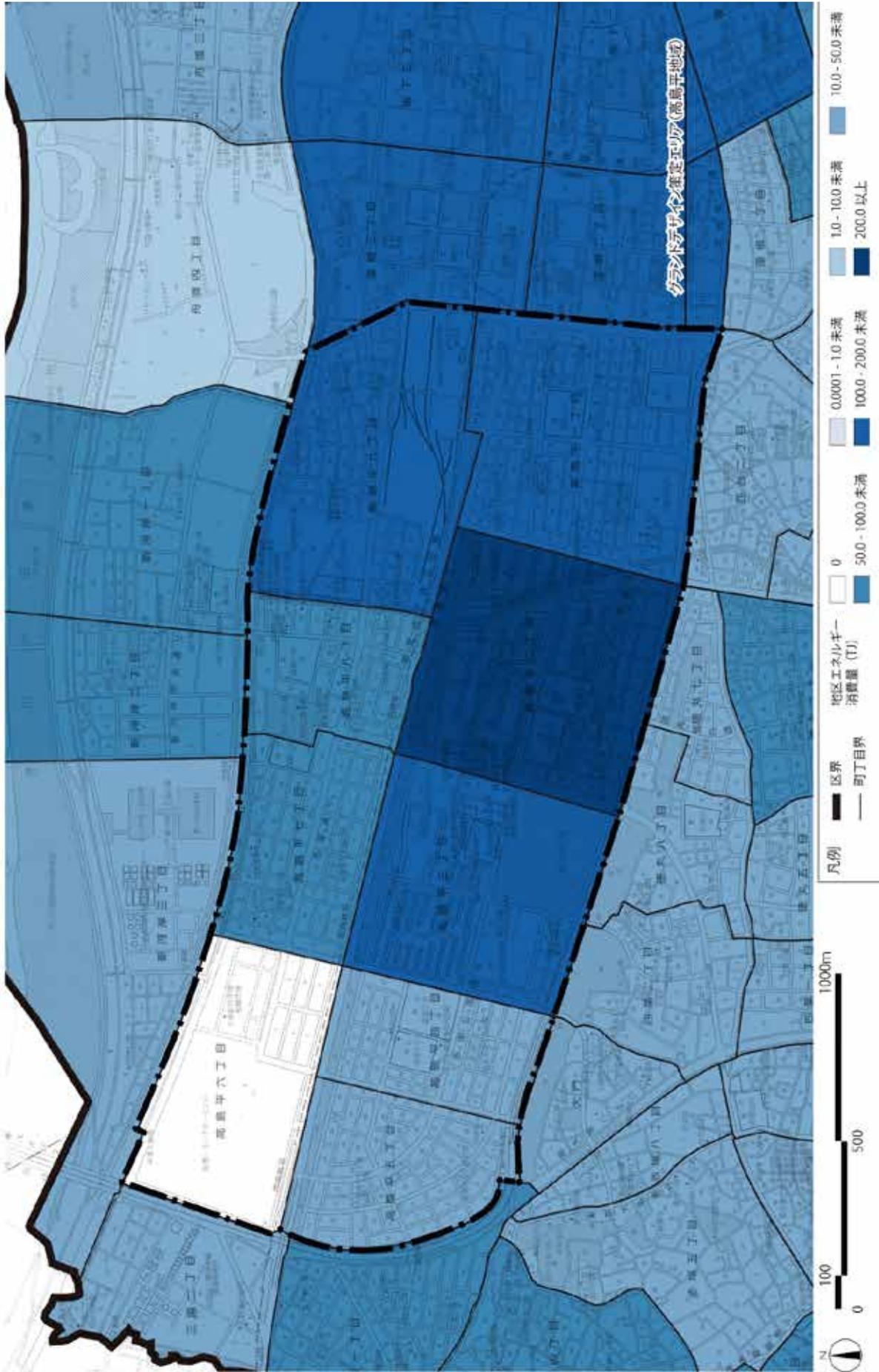
■ エネルギー需要 (家庭部門エネルギー消費量 (電気エネルギー))

参考:板橋区スマートシティ検討調査報告書(平成26年7月・板橋区)



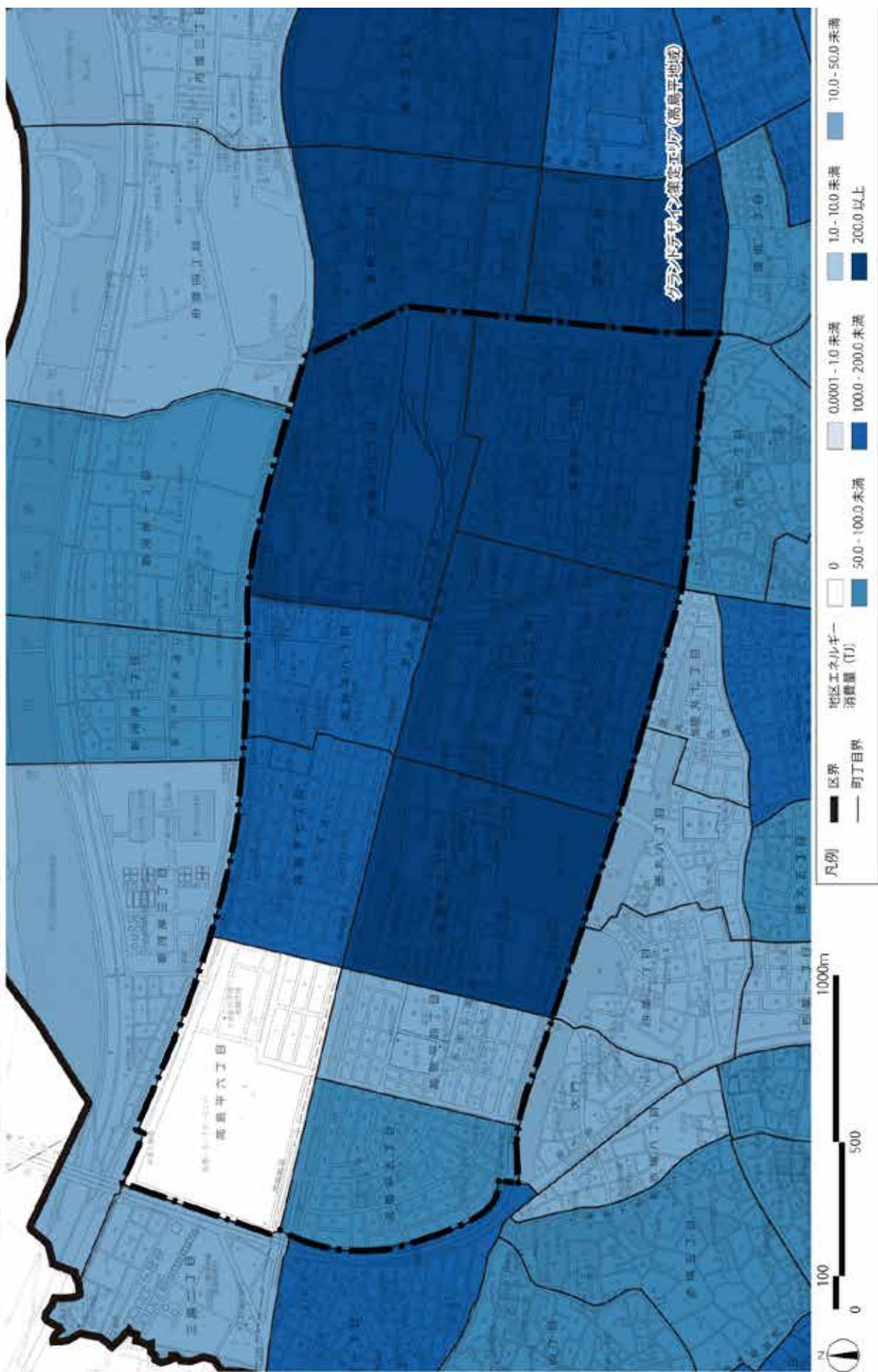
■ エネルギー需要 (家庭部門エネルギー消費量(熱エネルギー))

参考:板橋区スマートシティ検討調査報告書(平成26年7月・板橋区)



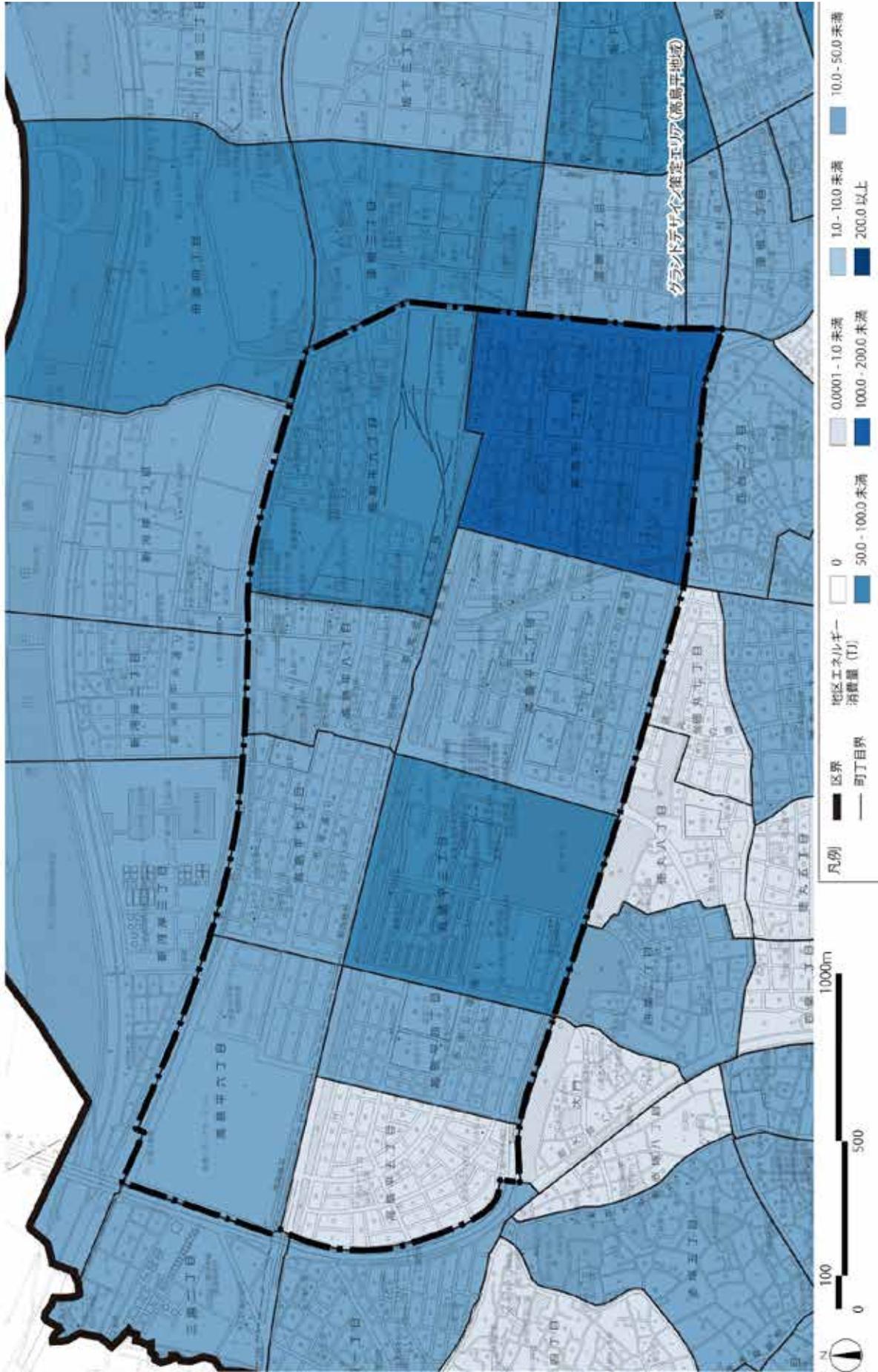
■ エネルギー需要 (家庭部門エネルギー消費量(電気・熱エネルギー合計))

参考:板橋区スマートシティ検討調査報告書(平成26年7月・板橋区)



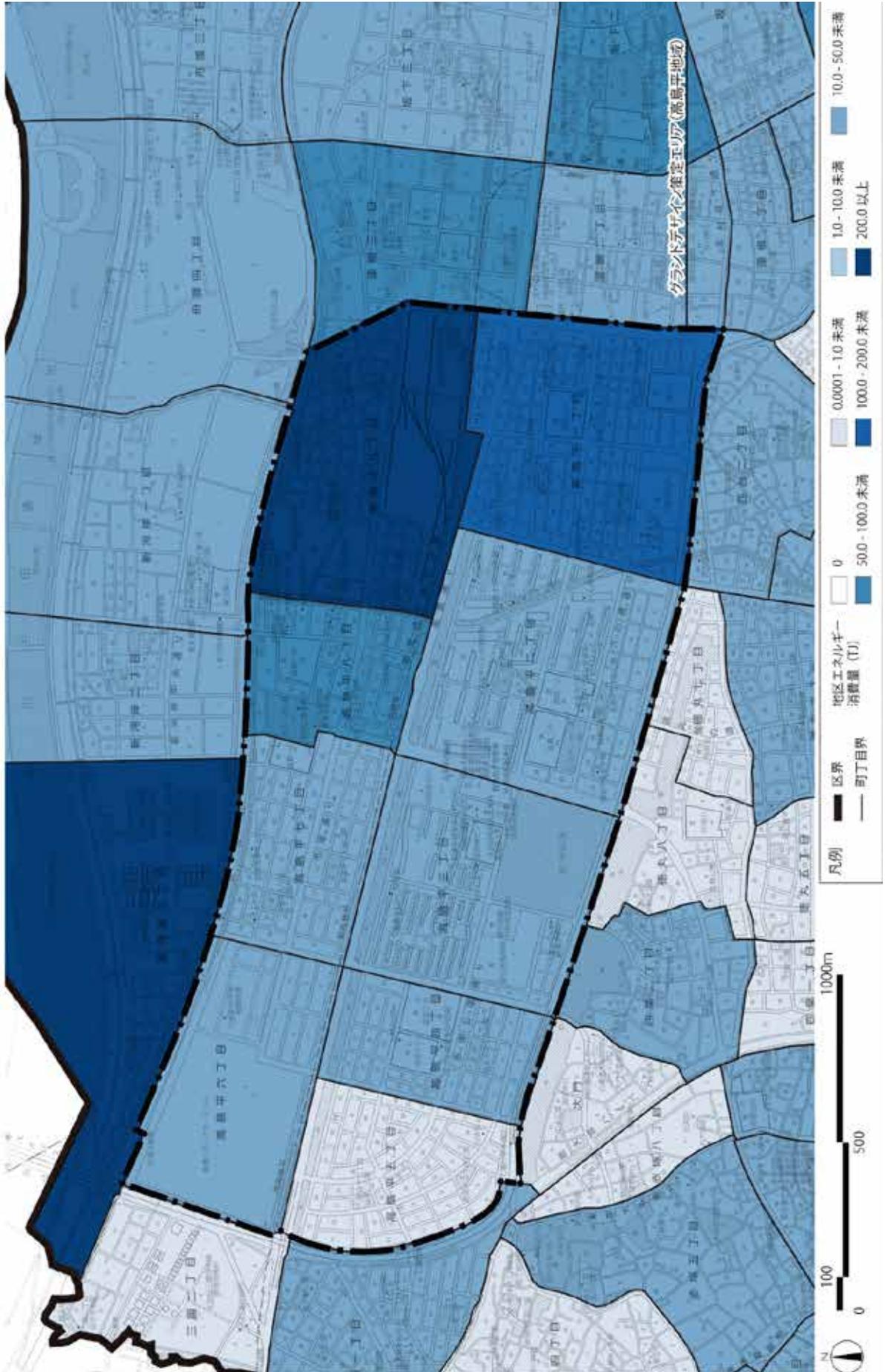
■ エネルギー需要 (業務部門エネルギー消費量(電気エネルギー))

参考:板橋区スマートシティ検討調査報告書(平成26年7月・板橋区)



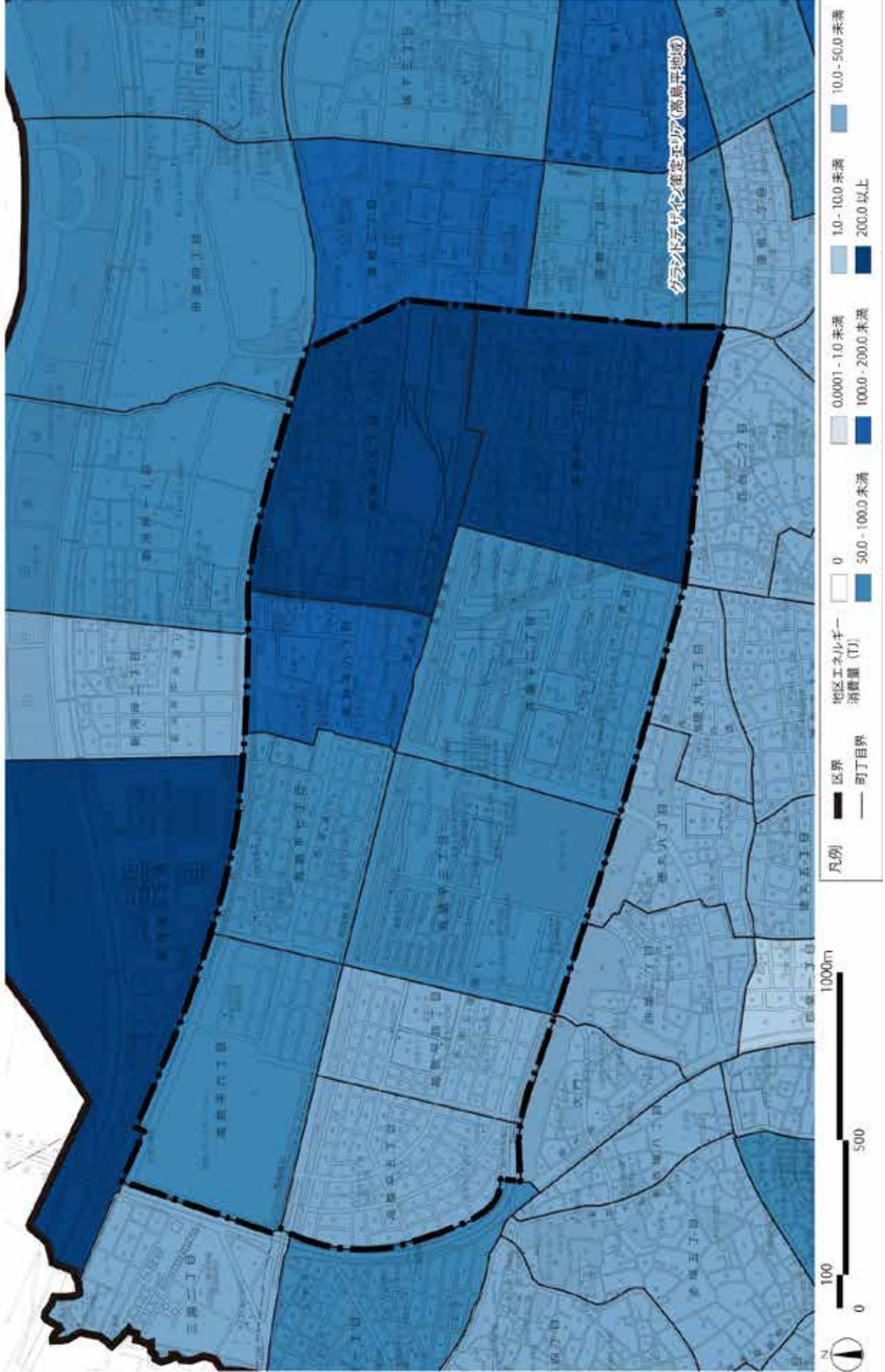
■ エネルギー需要 (業務部門エネルギー消費量(熱エネルギー))

参考:板橋区スマートシティ検討調査報告書(平成26年7月・板橋区)



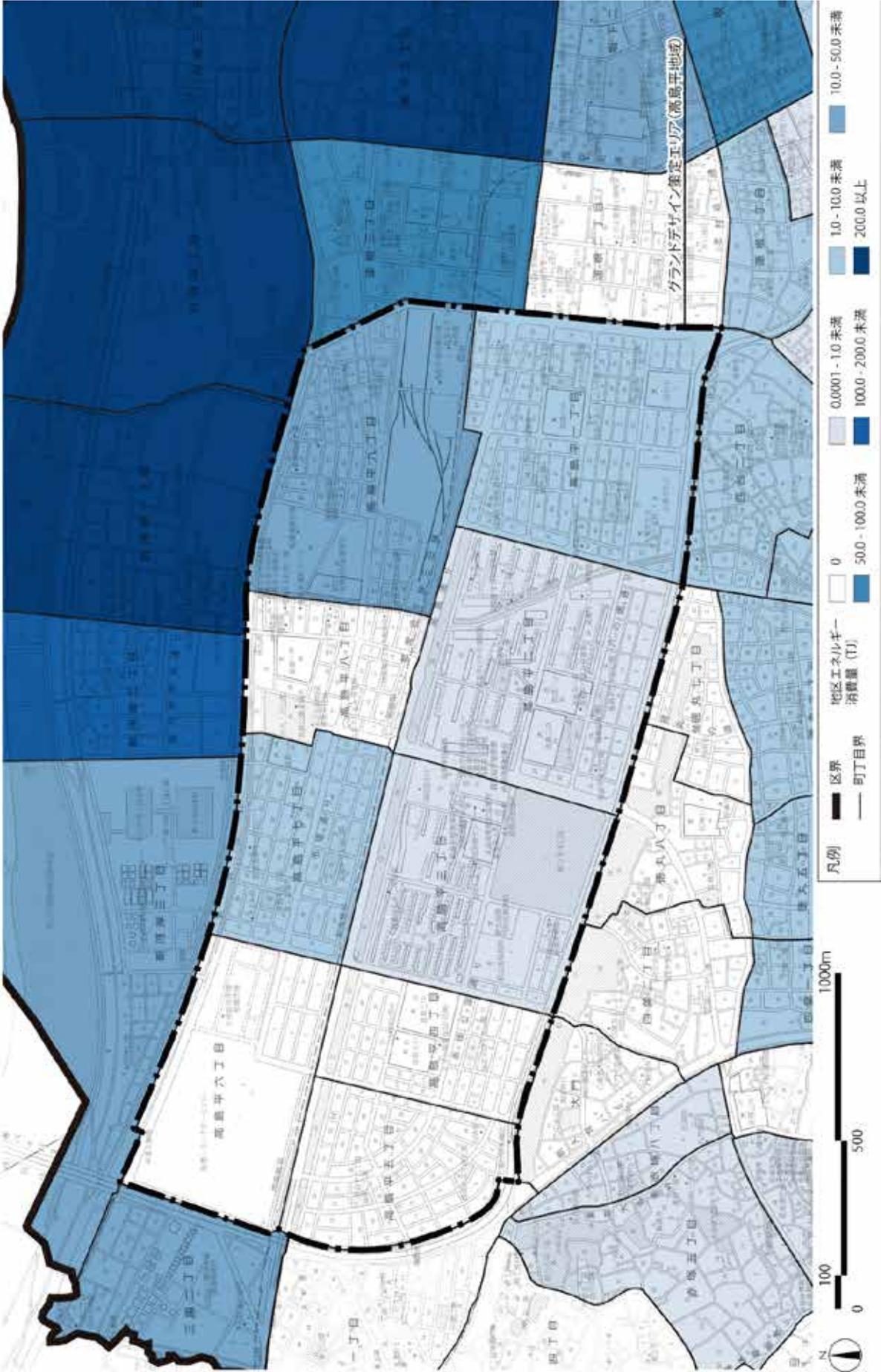
■ エネルギー需要（業務部門エネルギー消費量（電気・熱エネルギー合計））

参考：板橋区スマートシティ検討調査報告書（平成26年7月・板橋区）



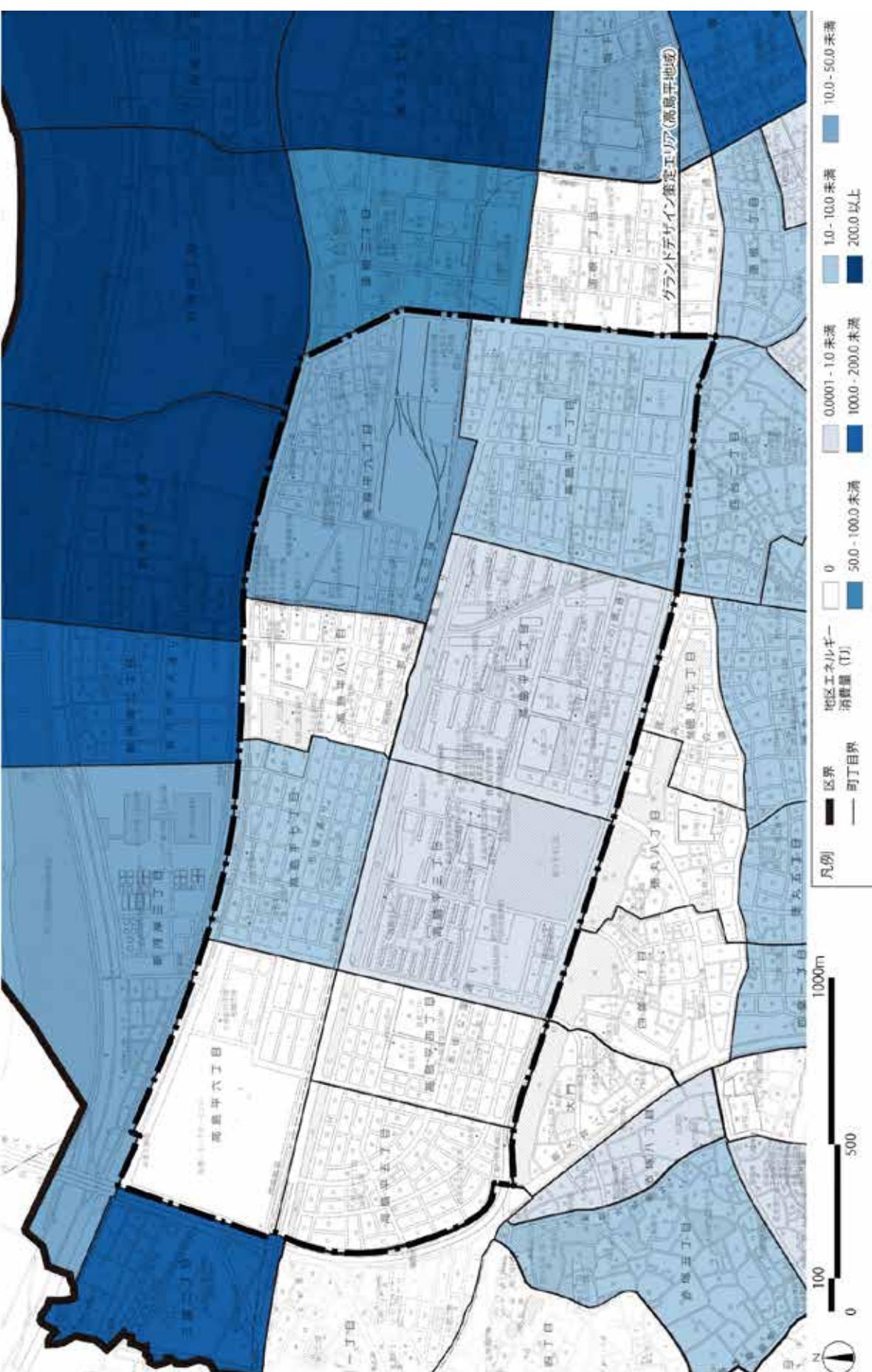
■ エネルギー需要 (産業部門エネルギー消費量(熱エネルギー))

参考:板橋区スマートシティ検討調査報告書(平成26年7月・板橋区)



■ エネルギー需要 (産業部門エネルギー消費量(電気・熱エネルギー合計))

参考:板橋区スマーティストシティ検討調査報告書(平成26年7月・板橋区)



10 防災

(1) 地域危険度（地震に関する地域危険度測定調査（第7回）平成25年9月）

建物倒壊危険度

- ・建物倒壊危険度は、建物の耐震性が低いほど、建築年代が古いほど高くなります。
- ・測定方法は、建物の構造、建築年代、階数別などに分類し、棟数を集計したものと地盤分類による建物が壊れる割合を掛け合わせることで測定されています。
- ・高島平地域では、高島平二丁目、六丁目危険度ランク1と最も危険度が低く、その他もランク2となっており、地域全体として危険度は比較的低下しています。
- ・また、道路整備の状況による災害時活動困難度を考慮した建物倒壊危険度をみると、高島平地域は、全ての町丁目で危険度ランク1と危険度が低下しています。

火災危険度

- ・火災危険度は、世帯や用途別の事業所の分布状況や火気器具等の使用状況を把握するとともに、火気器具、電気器具、化学薬品などの出火要因別の出火率を算定し、これらを掛け合わせることで測定されています。
- ・高島平地域では、戸建て住宅の多い高島平五丁目で危険度ランク2となっており、その他はランク1となっており、危険度は比較的低下しています。

総合危険度

- ・総合危険度は、町丁目ごとに、建物倒壊危険度と火災危険度の順位（1～5,133位）の数字を合算し、その数値に基づき順位付けを行い、評価した結果となっています。
- ・高島平地域では、高島平一丁目、四丁目、五丁目で危険度ランク2となっている他は最も危険度の低いランク1となっており、地域全体として危険度は低下しています。
- ・また、道路整備の状況による災害時活動困難度を考慮した建物倒壊危険度をみると、高島平地域は、全ての町丁目で危険度ランク1と危険度が低下しています。

(2)液状化予想（東京の液状化予測（平成25年3月 東京都建設局・港湾局））

- ・液状化予測図は、一般では調べるのが難しい地盤の液状化について、液状化のしやすさ、しにくさを相対的に表すことを目的として作成されました。液状化履歴、地形・地質、ボーリング地点での液状化解析結果等の諸情報の相互関係から液状化の可能性の程度が示されています。
- ・高島平地域では、高島平八丁目、九丁目の一部に「液状化の可能性が低い地域」がありますが、ほとんどの地域では「液状化の可能性のある地域」とされており、特に高島平三丁目、四丁目の一部には「液状化の可能性が高い地域」があります。

(3)浸水

浸水履歴

- ・平成17年以降の浸水履歴をみると、床上・床下浸水ともに高島平一丁目が多くなっています。
- ・その他の被害状況をみると、高島平三丁目道路冠水が多くなっています。
- ・平成26年6月の集中豪雨の際には、高島平三丁目と高島平七丁目道路冠水が起こったほか、高島平六丁目では道路陥没が起こっています。

表：地域別浸水履歴(床上浸水)

	高島平一丁目	高島平二丁目	高島平三丁目	高島平四丁目	高島平五丁目	高島平六丁目	高島平七丁目	高島平八丁目	高島平九丁目	高島平地域
平成17	10	4					2			16
19										
20	2	2								4
22										
23					1					1
25										
26										
計	12	6			1		2	0	0	21

出典：地域別浸水履歴(板橋区HP)

表：地域別浸水履歴(床下浸水)

	高島平一丁目	高島平二丁目	高島平三丁目	高島平四丁目	高島平五丁目	高島平六丁目	高島平七丁目	高島平八丁目	高島平九丁目	高島平地域
平成17	2						1			3
19										
20	3									3
22										
23										
25										
26										
計	5						1	0	0	6

出典：地域別浸水履歴(板橋区HP)

表：地域別浸水履歴(その他の被害)

	高島平 一丁目	高島平 二丁目	高島平 三丁目	高島平 四丁目	高島平 五丁目	高島平 六丁目	高島平 七丁目	高島平 八丁目	高島平 九丁目
平成17	道路冠水	道路冠水				道路冠水	道路冠水		停電
19			道路冠水						
20									
22									道路冠水
23			道路冠水						
25		道路冠水	道路冠水						道路冠水
26			道路冠水			道路陥没	道路冠水		

出典：地域別浸水履歴(板橋区HP)

(4)洪水ハザードマップ

- ・板橋区洪水ハザードマップは、200年に一回程度発生する規模の洪水を想定し、平成12年9月の東海豪雨と同様の降雨量があった場合の浸水状況を想定して作成されました。
- ・高島平地域では、荒川が氾濫した場合、全域で2m以上の浸水が想定されており、非常に危険な地域となっています。
- ・また、新河岸川が氾濫した場合、新河岸川沿川を中心に三田線北側の地域で0.5～2m程度の浸水が想定されており、浸水の危険性が高い地域となっています。

(5)指定避難所

- ・板橋区では、すべての区立小中学校を指定避難所とし、公文書館(旧板三小)、フレンドセンター(旧板四中)、旧高七小、旧大山小、旧若葉小を避難所としています。

(6)一時滞在施設

- ・板橋区では、災害時の帰宅困難者対策として、区内で12箇所の一時滞在施設を指定しています。高島平地域では、高島平地域センターが指定されています。
- ・また、東京都では、都立施設等200施設を大規模災害時に帰宅困難者を受け入れる一時滞在施設として指定しており、高島平地域においては、板橋市場が指定されています。

(7)避難場所

- ・大規模な災害が発生し、火災等が発生していて、自宅での避難が危険な場合や指定避難所へ向かうのが難しい場合には、避難場所に向かうとされています。
- ・高島平地域では、避難場所として高島平団地を中心とし、学校等も多く立地している高島平二丁目～四丁目の一部が指定されています。
- ・なお、UR都市機構へのヒアリングによると、団地居住者を対象に半日分の自家発電設備はありますが、避難場所としては不十分な設備となっています。

(8)地域の防災活動

東京防災隣組

- ・東京都は、平成 24 年より、意欲的な防災活動を行う団体を「東京防災隣組」として認定し、その取り組みを広く社会に発信し、地域の防災活動の活性化を図っています。
- ・現在都内143団体が東京防災隣組として認定されており、「高島町会、高島平三丁目町会、高島平三丁目自治会、赤塚河岸町会」が第三回東京防災隣組として平成26年に認定されています。
- ・主な取り組み内容としては、中学生と地元町会・自治会が連携した災害時要援護者支援と避難所運営に向けた次のような活動を実施しています。

高島町会、高島平三丁目町会、 高島平三丁目自治会、赤塚河岸町会（板橋区）

中学生と地元町会・自治会が連携した 災害時要援護者支援と避難所運営の取組

【取組概要】

- 地域の中学校を中心とした周辺4町会・自治会が関係団体などと連携し、中学生を含めた防災活動を展開、平成21年から合同で訓練を実施
- 訓練の実施に向けて実行委員会を複数回開催。4町会・自治会と中学校のほか、NPO ボランティア団体(障害者支援団体)や民生委員などが参加
- 合同訓練では、「守られる側から地域防災の担い手に」をスローガンに中学生と地域住民が一体となって災害時要援護者への避難誘導や避難所開設訓練を実施



町会旗を掲げ先導する中学生



車椅子で要援護者を避難誘導



「避難所運営協議会」の開設

大東文化大学環境創造学部

- ・大東文化大学環境創造学部では、教育・研究・実践を、広く社会に開かれたものにするための自由な議論の場として環境創造フォーラムが毎年開催されています。
- ・平成 25 年度においては、「今、改めて考える大東文化大学と地域の防災」として、地域・大学・自治体が抱える防災・減災上の課題について学ぶと共に、災害時や日頃の備えにおける大学の地域貢献のあり方や、行政との連携による災害時対応について議論が展開されました。
- ・また、フォーラムに先立っては、地域の皆さんとともに学生が参加して防災マップづくりを行っています。

今、改めて考える大東文化大学と地域の防災

テーマ解題：大学と地域の防災を考える

大東文化大学 環境創造学部 講師 飯塚裕介

(第1部) 他地域に学ぶ

多摩ニュータウンにおける地域と大学の防災の取り組み

首都大学東京 都市環境学部 教授 吉川徹

(第2部) 他地域に学ぶ

大東文化大学における防災対策について

大東文化大学管理課 課長 廣澤洋子

学校における防災教育について

板橋区教育委員会 矢崎良明

板橋区の防災対策について

板橋区危機管理室住民防災支援課住民防災支援担当係長 重田雅文
大学周辺の地域住民による防災対策について

板橋区高島平地域在住 石田ゆかり

(第3部) 防災ワークショップの報告

ワークショップの概要説明

大東文化大学 環境創造学部 講師 飯塚裕介

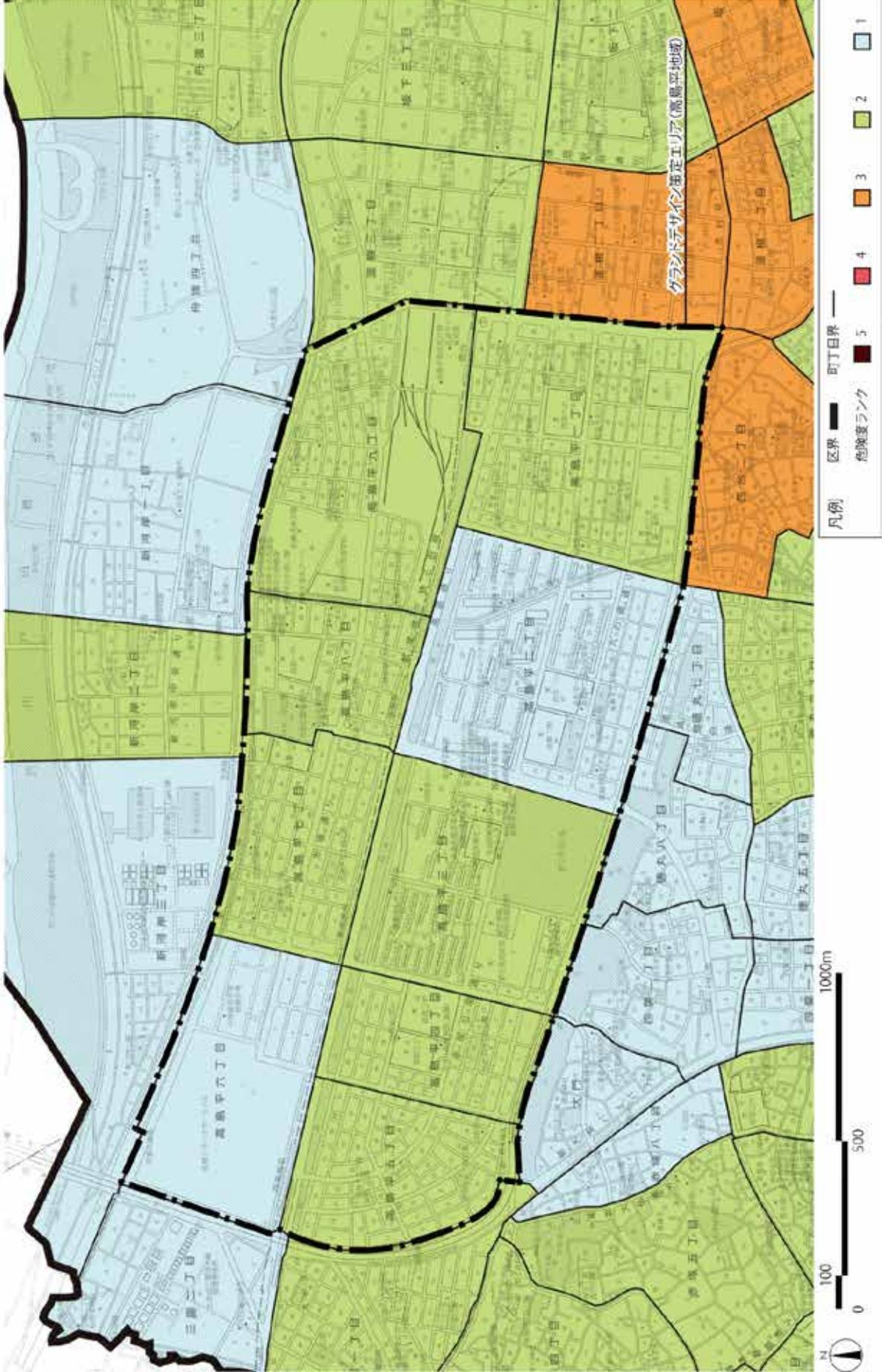
防災ワークショップの実施報告と今後の活動に向けた提言

防災ワークショップ参加学生

減災・福祉パートナーズ 代表 蓮本浩介
人と未来防災センター 研究主幹 近藤伸也

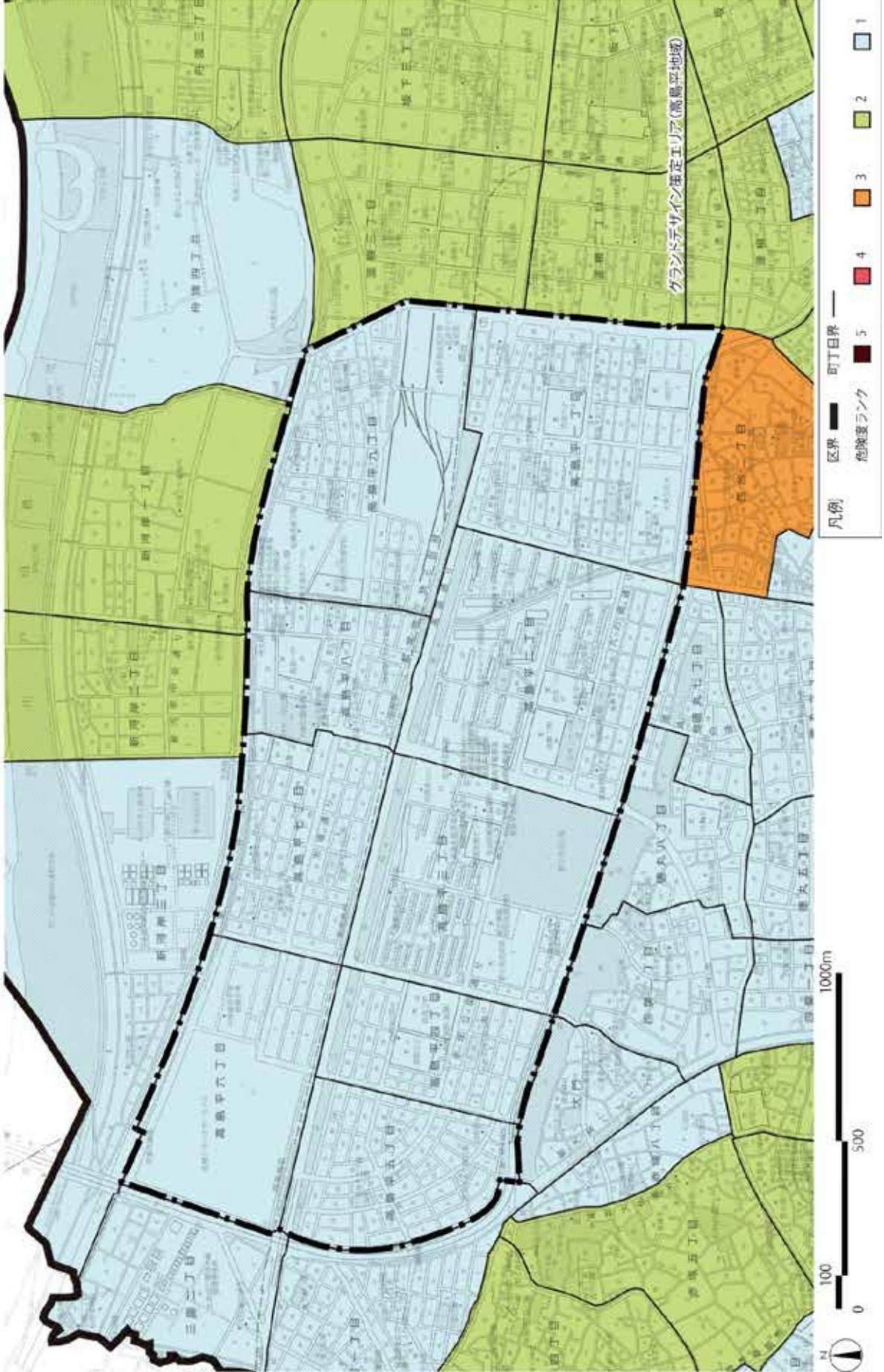
■ 地域危険度 (建物倒壊危険度)

参考:地震に関する地域危険度測定調査報告書(第7回)(平成25年・東京都)



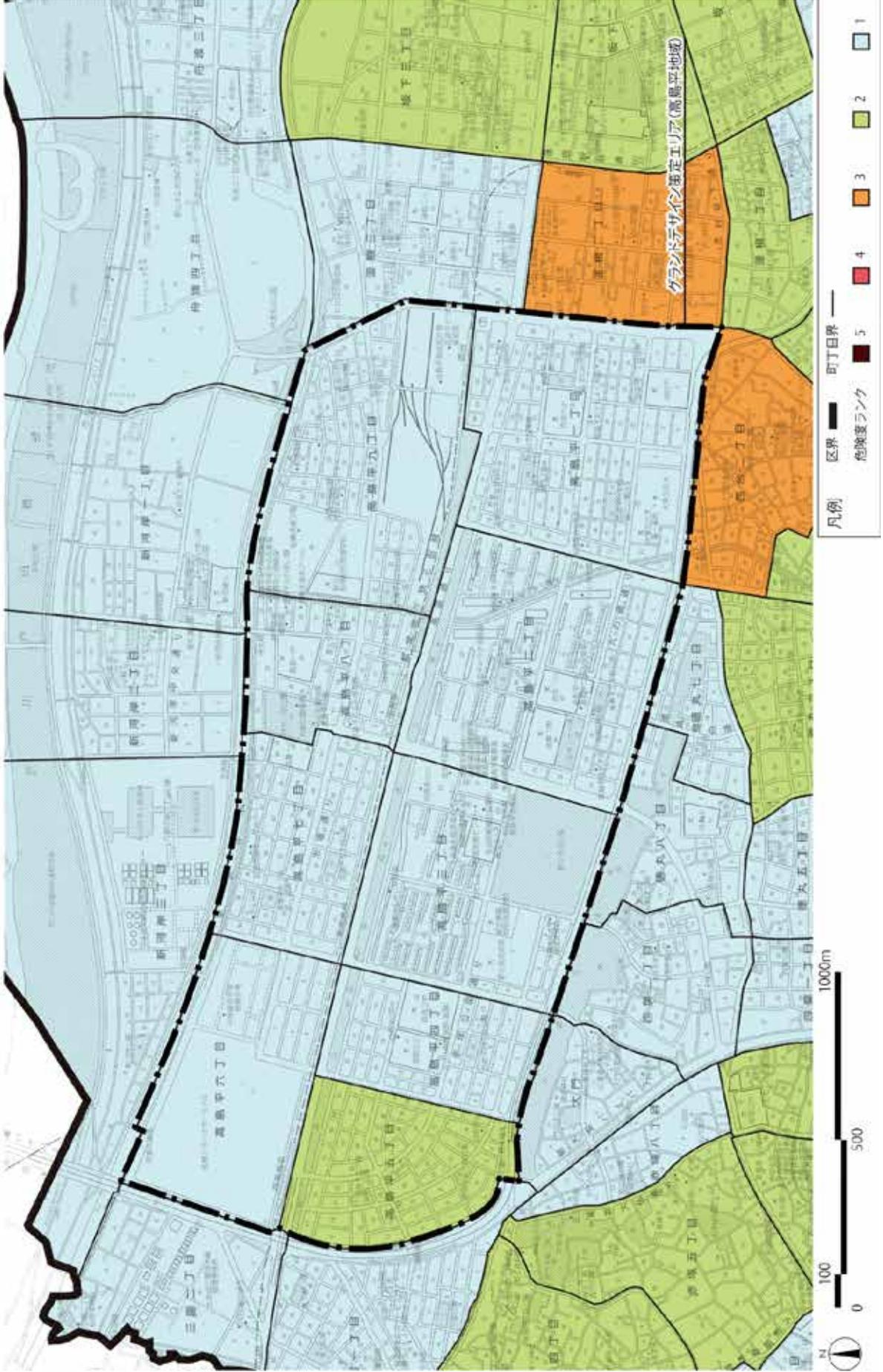
■ 地域危険度 (災害時活動困難度を考慮した建物倒壊危険度)

参考:地震に関する地域危険度測定調査報告書(第7回)(平成25年・東京都)



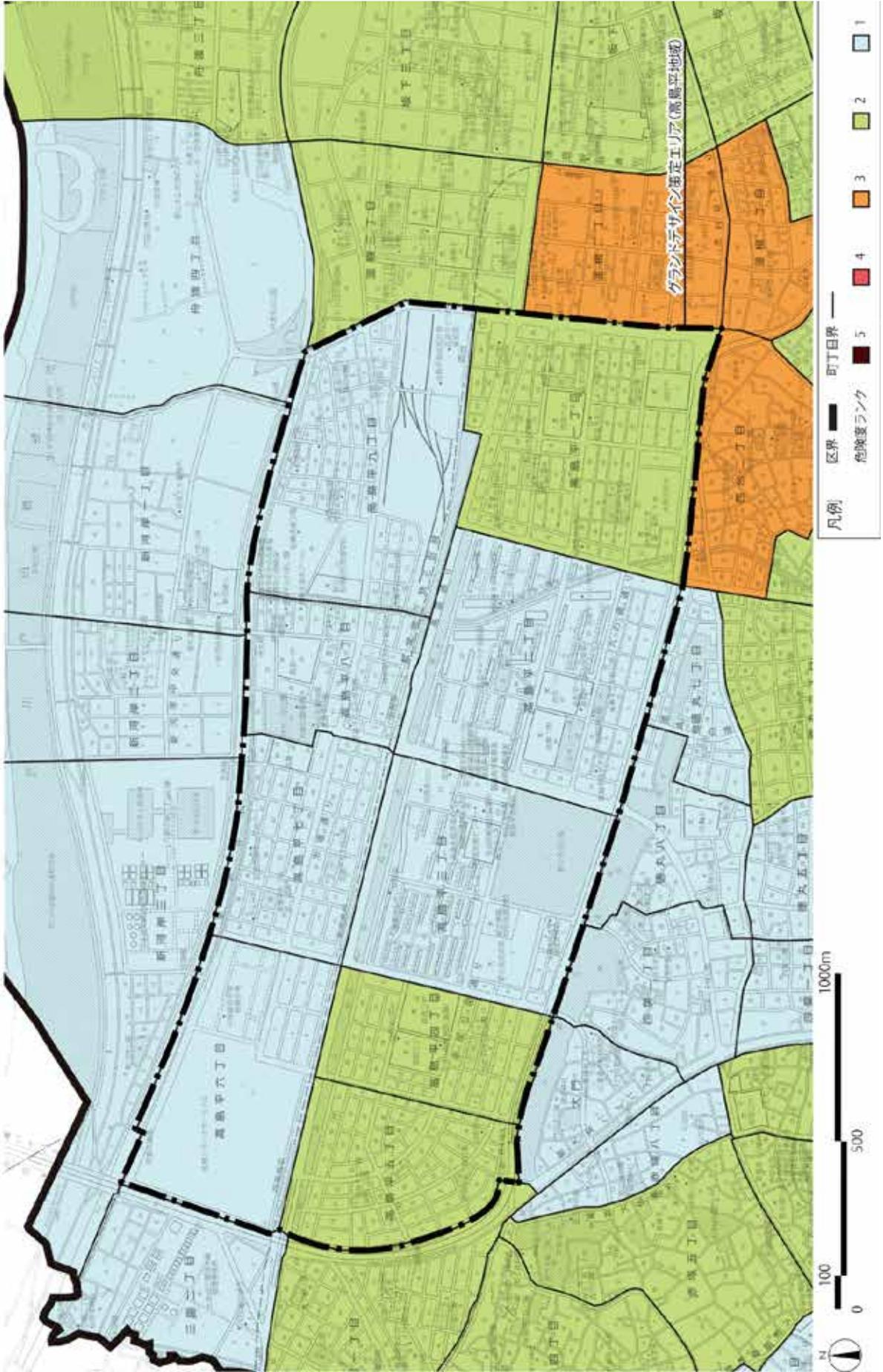
■ 地域危険度 (火災危険度)

参考:地震に関する地域危険度測定調査報告書(第7回)(平成25年・東京都)



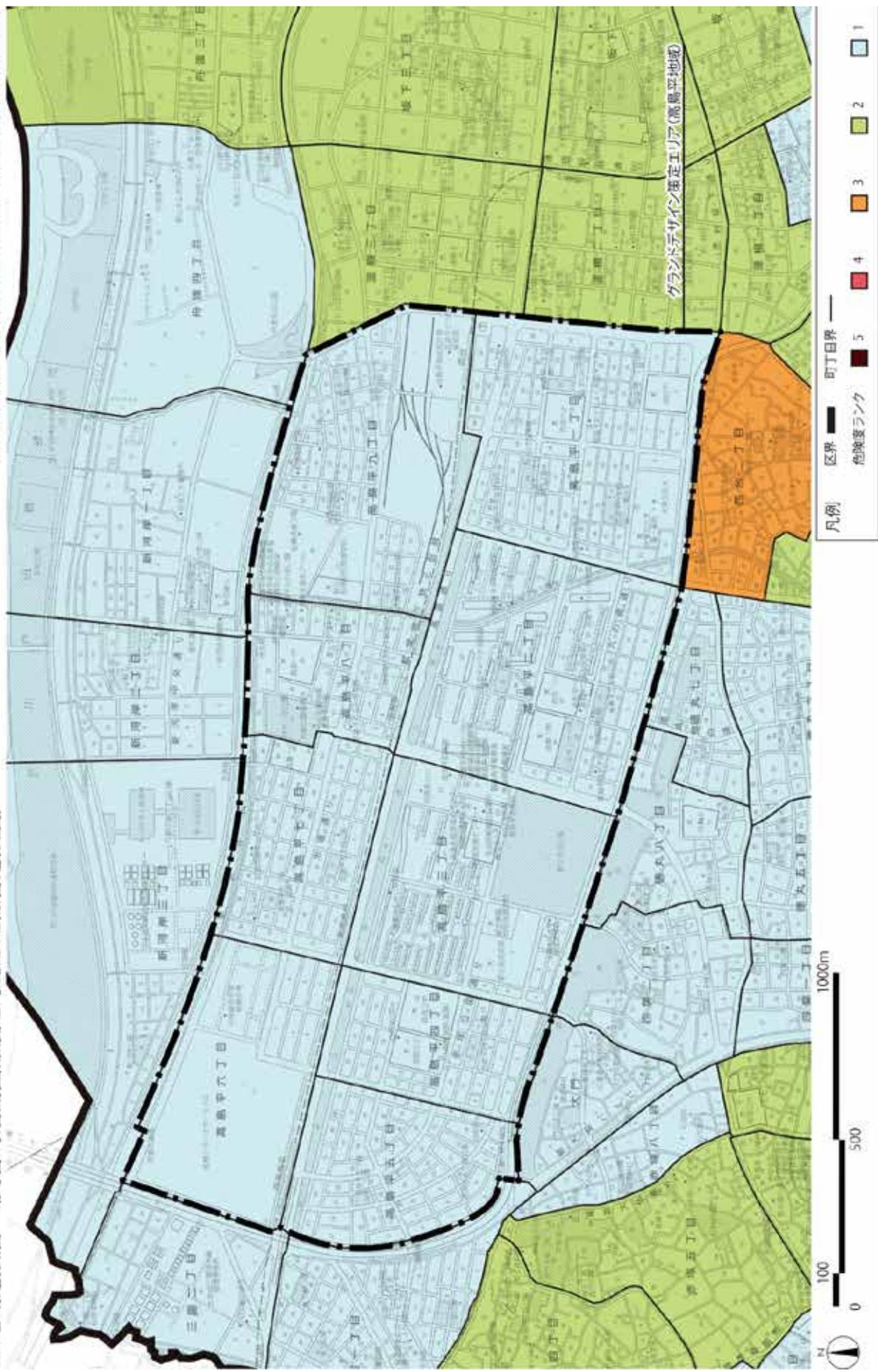
■ 地域危険度 (総合危険度)

参考:地震に関する地域危険度測定調査報告書(第7回)(平成25年・東京都)



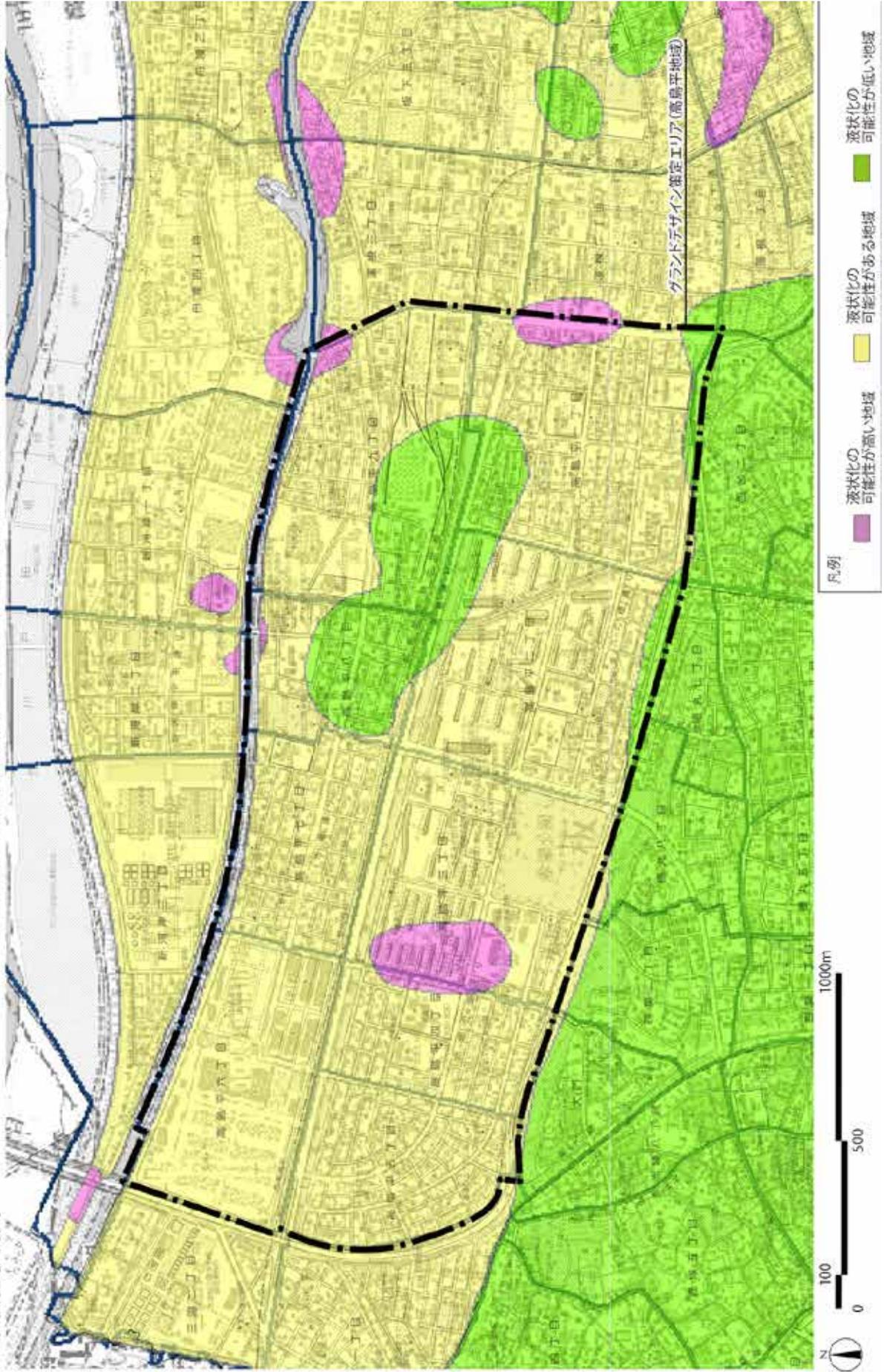
■ 地域危険度（災害時活動困難度を考慮した総合危険度）

参考：地震に関する地域危険度測定調査報告書（第7回）（平成25年・東京都）



■ 液状化予測図

出典：東京の液状化予測（平成24年度改訂版）（東京都土木技術支援・人材育成センター http://doboku.metro.tokyo.jp/start/03_jyuhou/eisijyouka/hmap1.aspx）



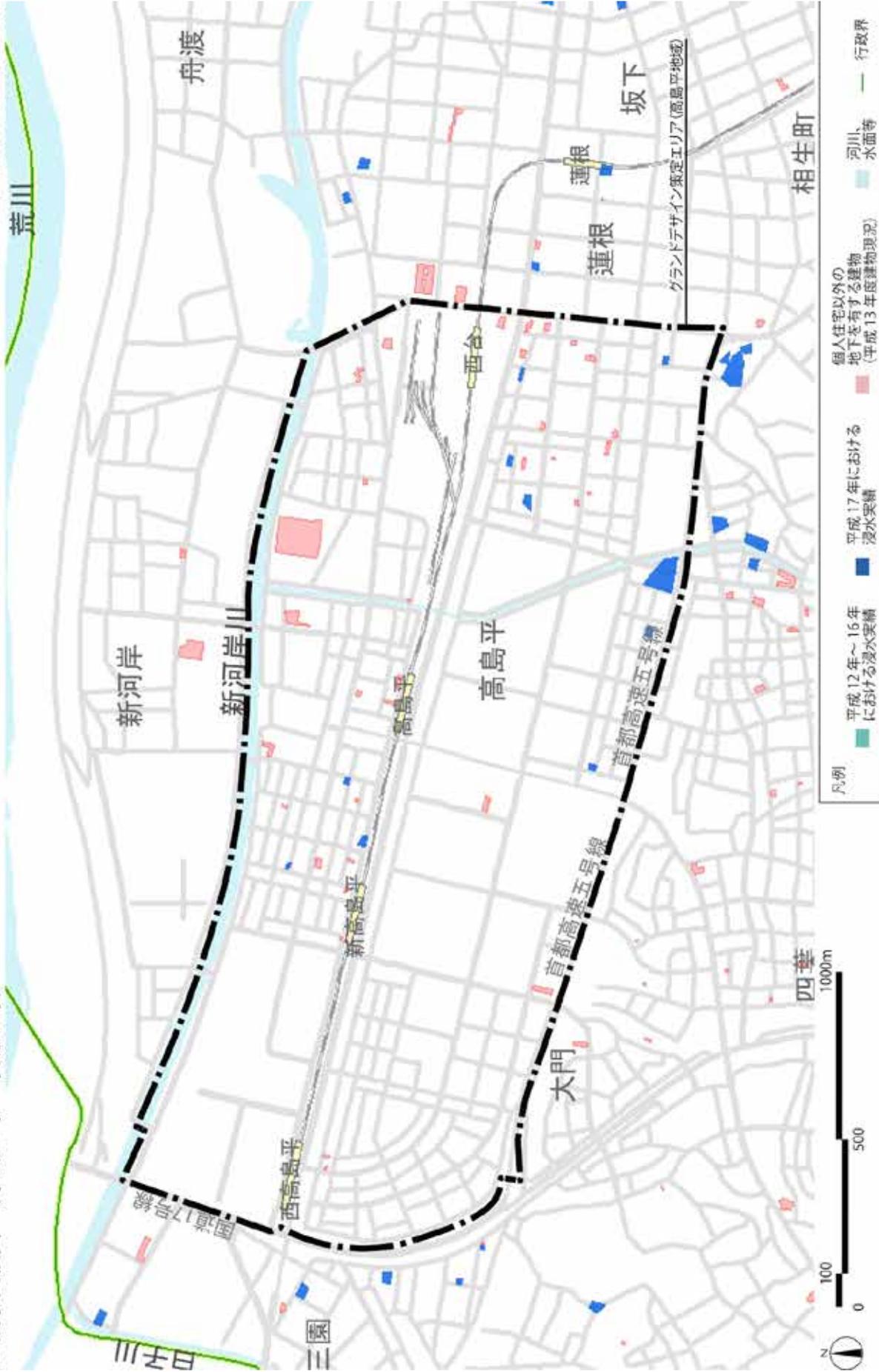
■ 浸水実績図 (平成元年～平成11年)

出典：浸水実績図 (東京都建設局)



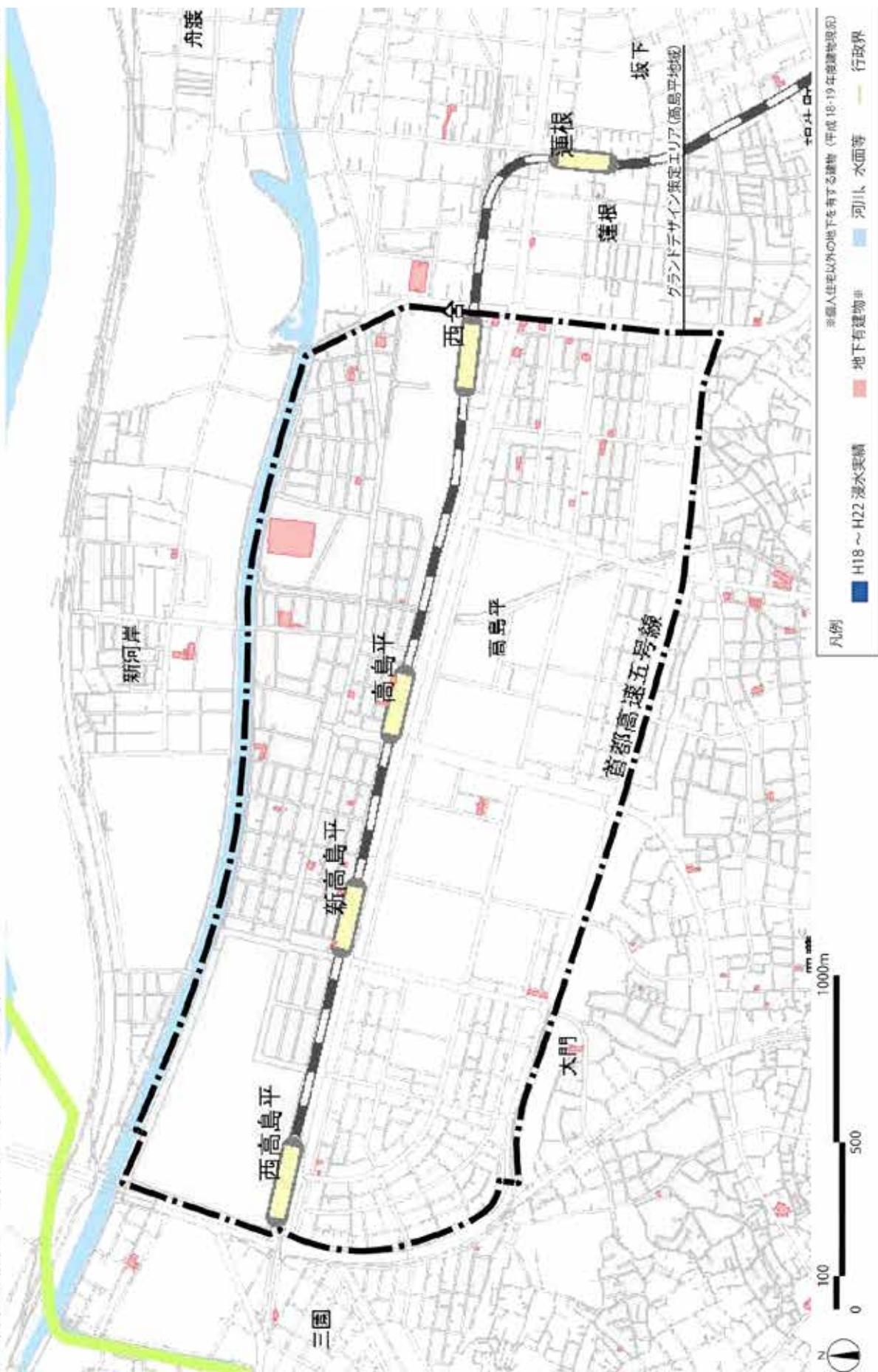
■ 浸水実績図（平成12年～平成17年）

出典：浸水実績図（東京都建設局）



■ 浸水実績図 (平成18年～平成22年)

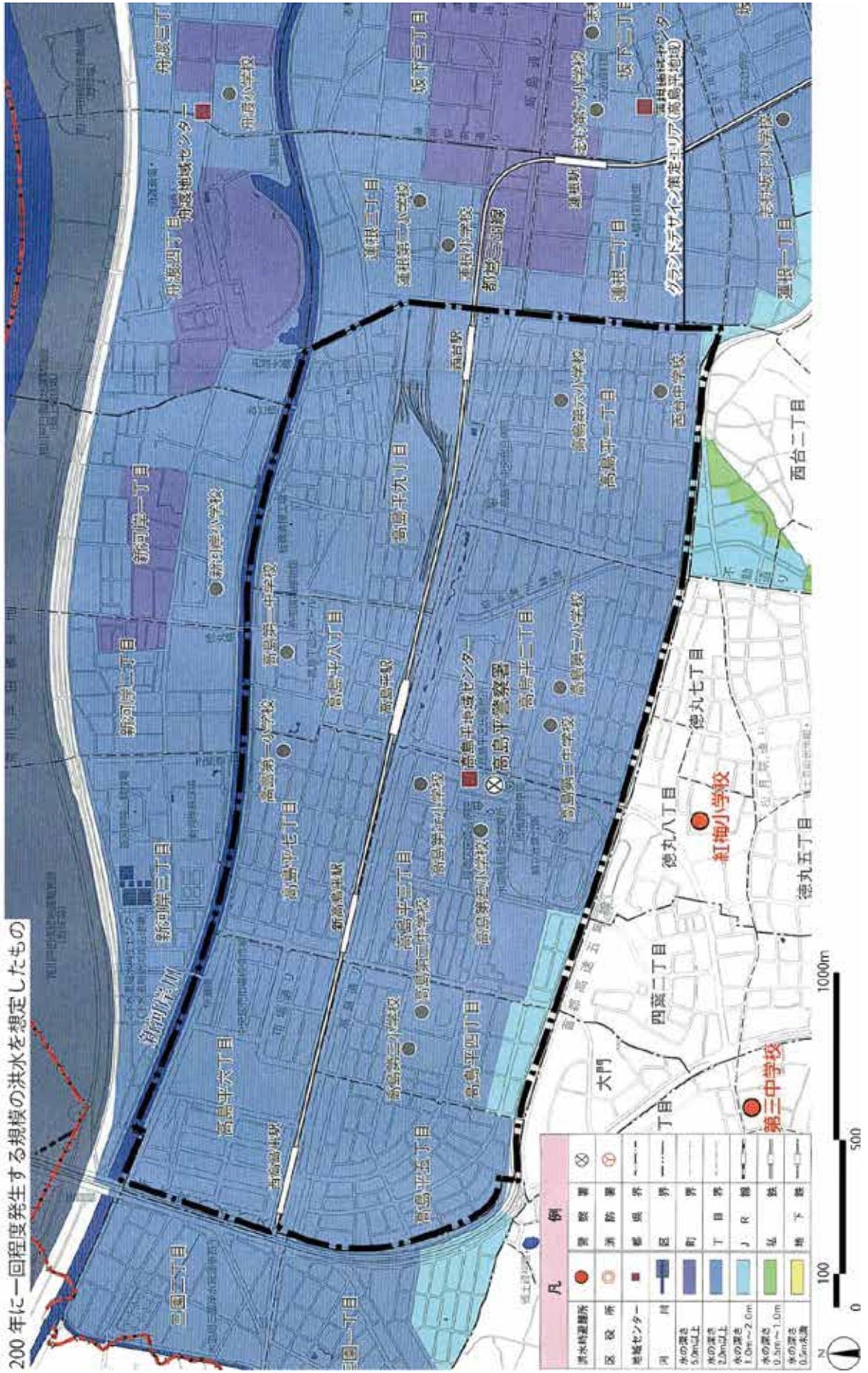
出典：浸水実績図 (東京都建設局)



■ 洪水ハザードマップ (荒川版)

200年に一回程度発生する規模の洪水を想定したものの

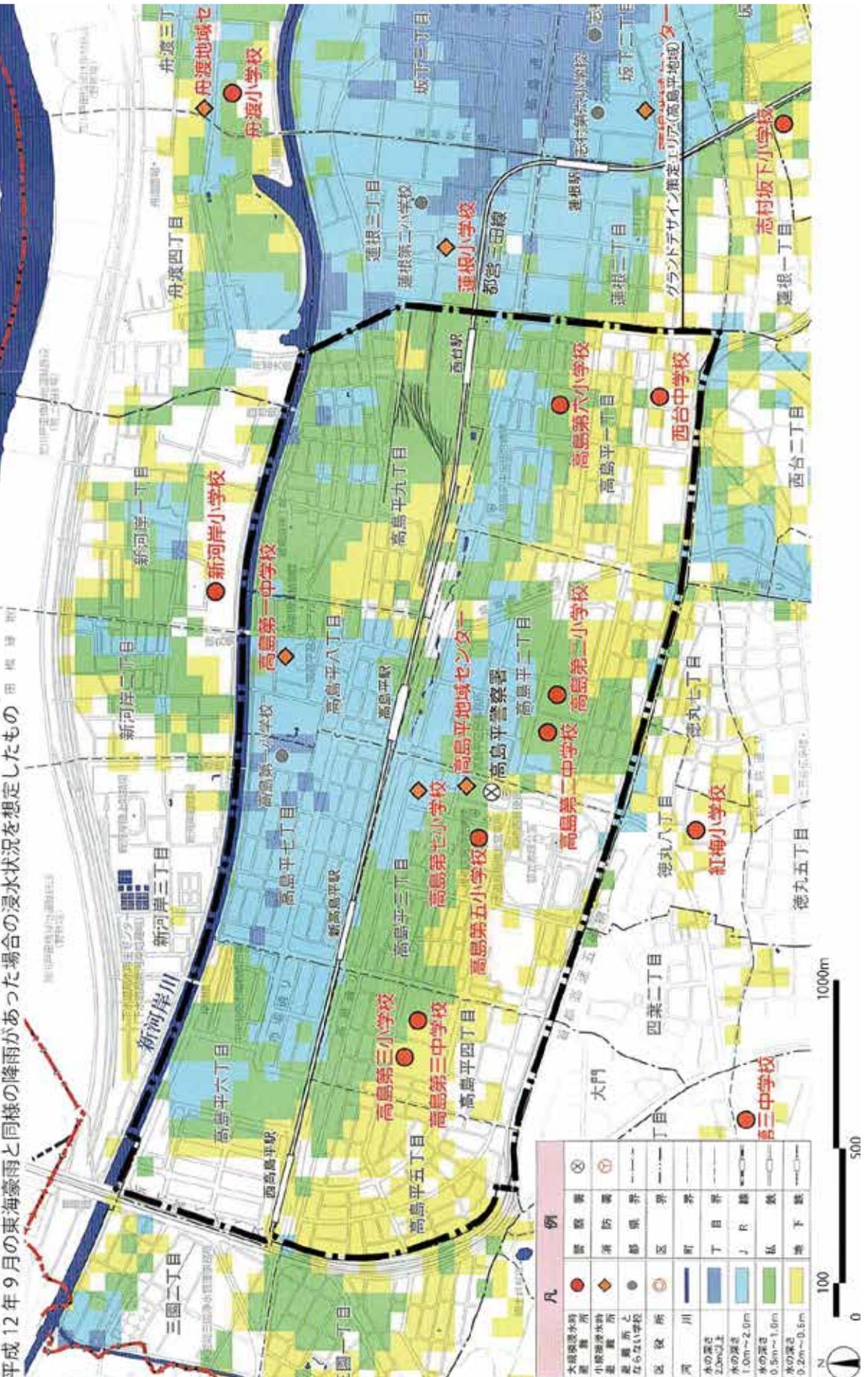
出典：洪水ハザードマップ (板橋区)



■ 洪水ハザードマップ（新河岸・石神井・白子川版）

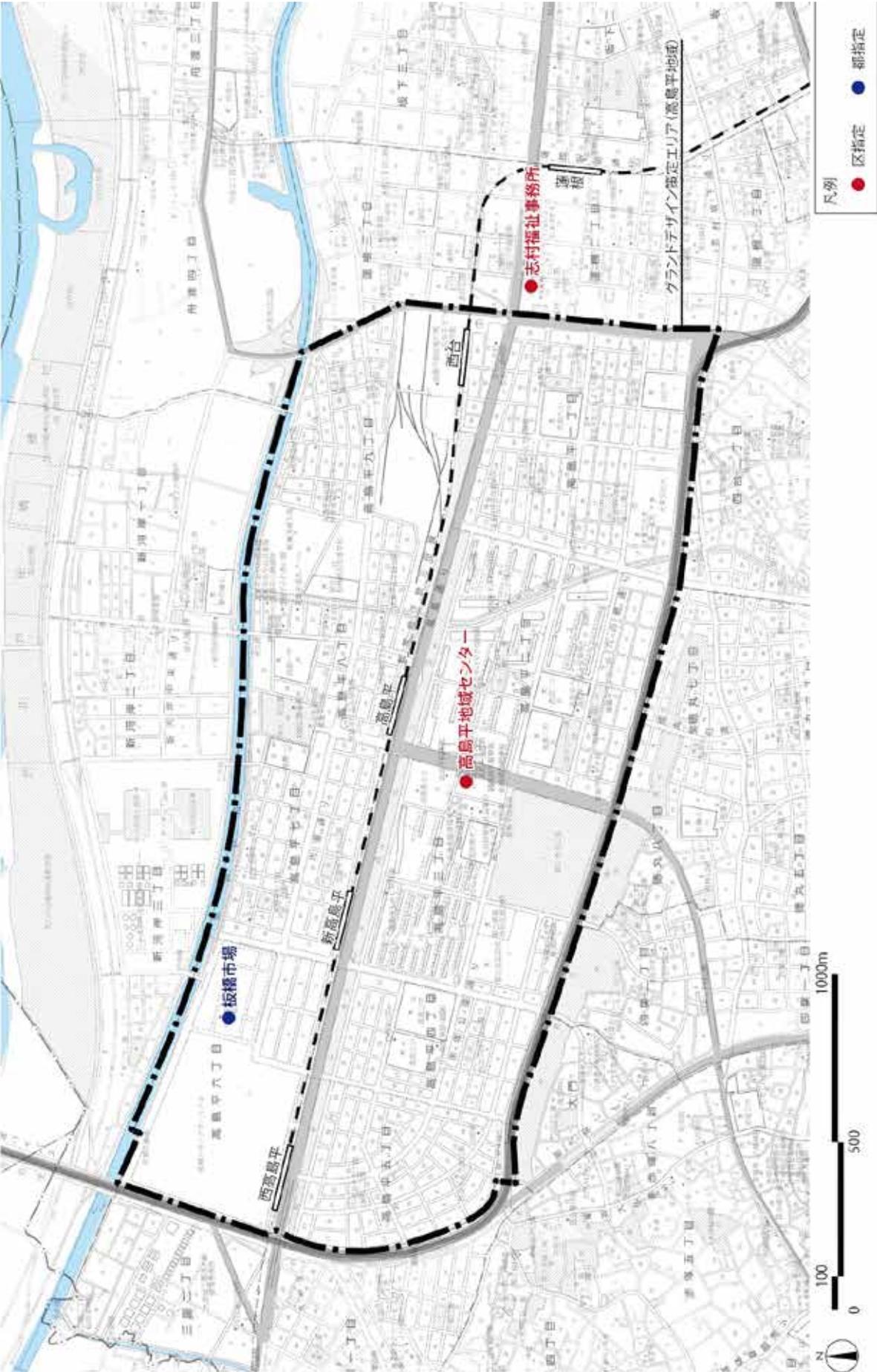
平成12年9月の東海豪雨と同様の降雨があった場合の浸水状況を想定したものの

出典：洪水ハザードマップ（板橋区）



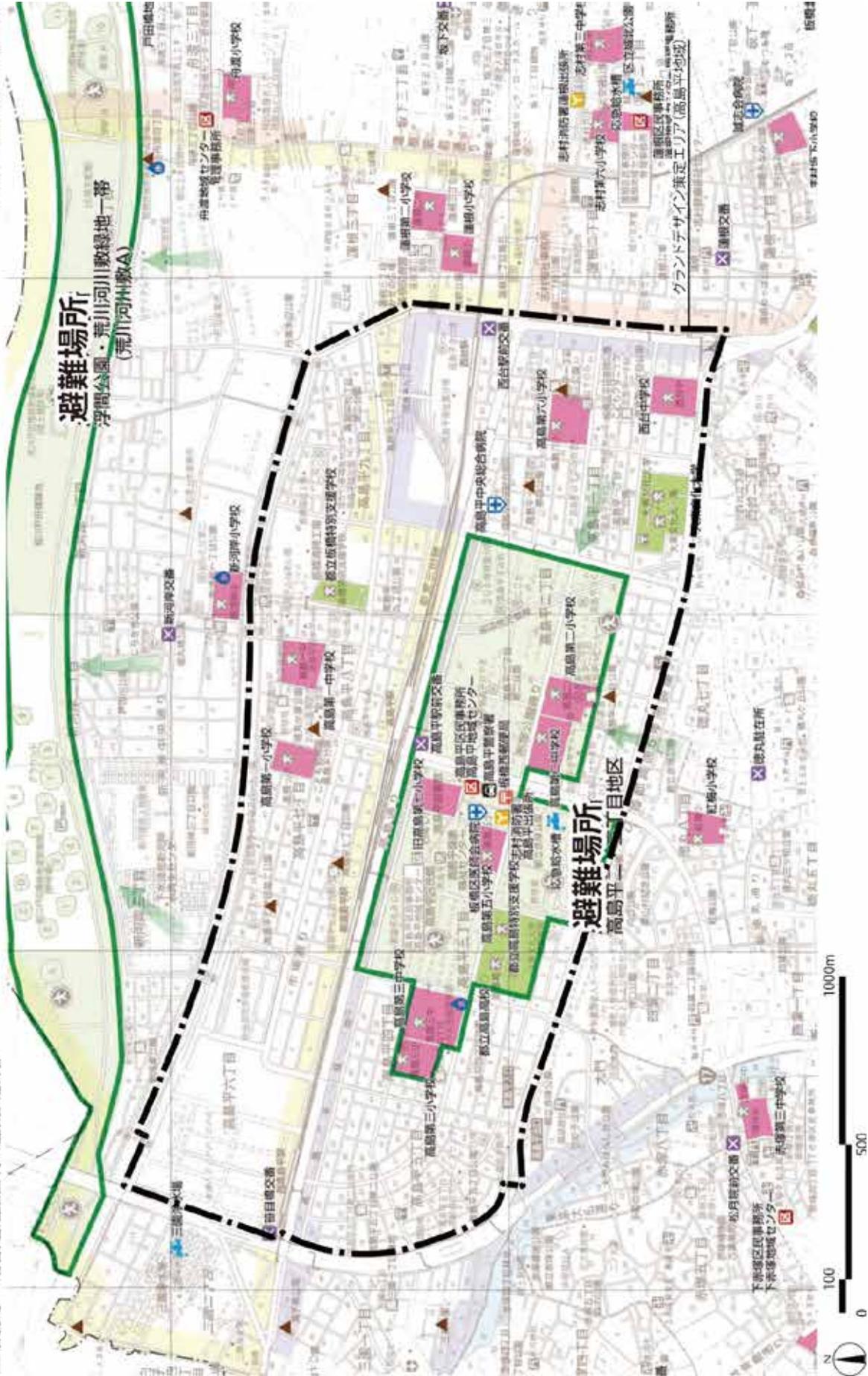
■ 防災（一時滞在施設）

参考：板橋区ホームページ「区一時滞在施設」（危機管理室 防災計画推進課）、東京都防災ホームページ「一時滞在施設情報」（東京都総務局総合防災部防災管理課）



■ 防災（指定避難所・避難場所）

出典：板橋区防災マップ（板橋区）



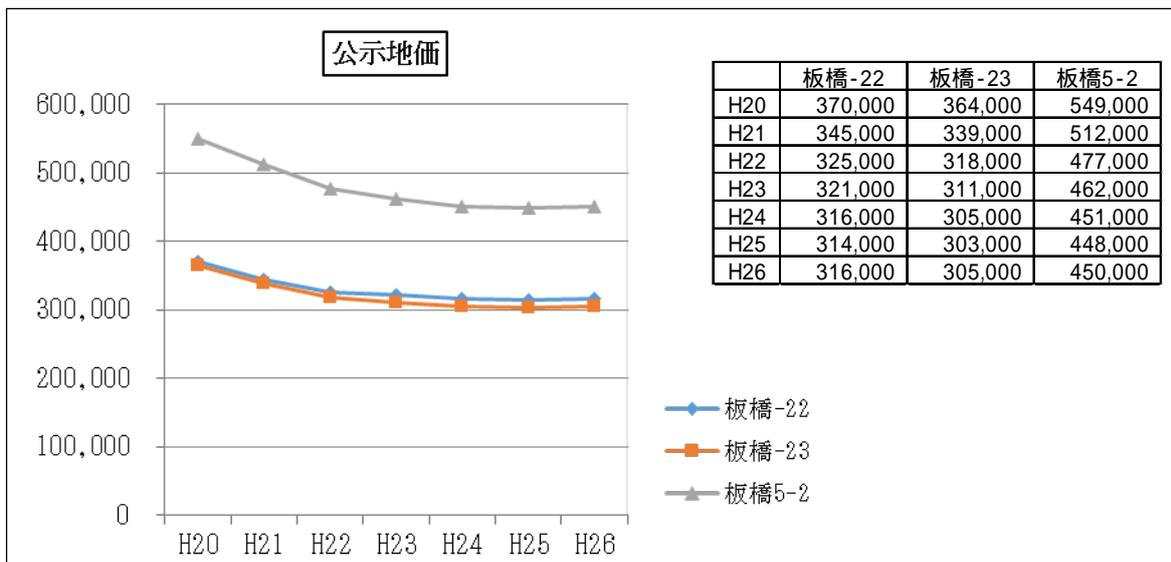
1 1 地価

- ・過去6年間の高島平地域の公示地価をみると、平成20年から23年までは減少傾向にあり、その後はほぼ横ばいとなっています。
- ・国土交通省地価公示における鑑定評価書によると、板橋区全体では不動産取引件数も増加傾向が続いており、地価動向は横ばいから緩やかな上昇に転じつつあるとされています。高島平地域においても、平成25年に比べると若干、上昇しています。
- ・しかし、区の住宅地及び商業地の前年度変動率が1.0%となっているのに対し、高島平地域内の各標準地をみると、0.4~0.7%と区平均より低くなっています。
- ・標準地別にみると、板橋5-2（高島平八丁目）は容積率も高く、駅から徒歩圏の商業地域であることから、他の標準地より価格が高く450千円/㎡（H26）となっており、板橋-23（高島平五丁目）の約1.5倍の価格となっています。

表：国土交通省地価公示各標準地（都道府県地価調査）

番号	板橋-22	板橋-23	板橋5-2
住所	高島平1-37-4	高島平5-47-7	高島平8-15-1
面積(㎡)	153	224	423
構造	木造	LS	RC
階数	2F	2F	5F
利用現況	住宅	住宅	店舗兼共同住宅
前面道路	南6.0m区道	南6.0m区道	東6.0m区道
用途地域	一低住 準防火	一低住 準防火	商業 防火
建ぺい率	60	50	80
容積率	200	100	500

グラフ：国土交通省地価公示地価の推移（都道府県地価調査 隔年1月1日）



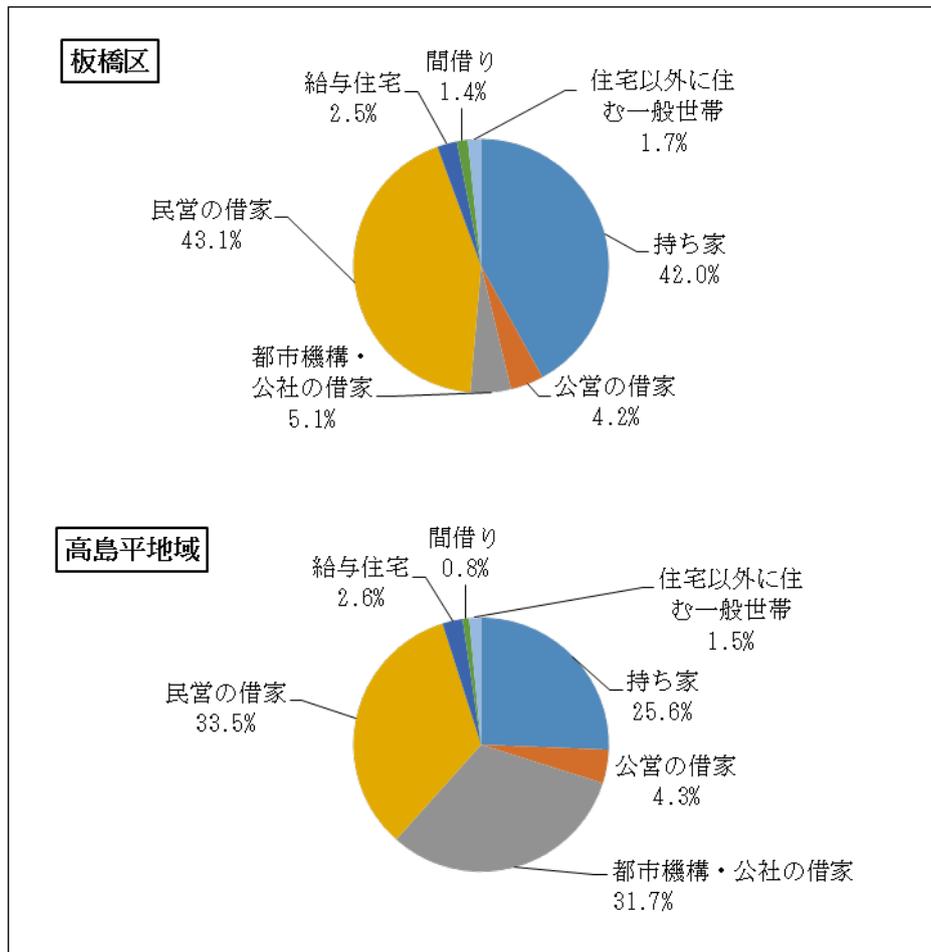
1 2 居住環境

(1)住宅の所有関係別一般世帯数

- ・平成 22 年国勢調査による住宅の所有別世帯数をみると、板橋区では「民営の借家」に暮らす世帯（43.1%）と「持ち家」に暮らす世帯（42.0%）がほぼ同数を占めています。
- ・一方、高島平地域では、「民営の借家」に暮らす世帯（33.5%）と「都市機構・公社の借家」に暮らす世帯（31.7%）がほぼ同数を占めるところが特徴的です。
- ・なお、高島平地域においては「持ち家」は 25.6%と、区の平均よりも少なくなっています。

表・グラフ：住宅の所有関係別世帯数

	持ち家	公営の借家	都市機構・公社の借家	民営の借家	給与住宅	間借り	住宅以外に住む一般世帯
板橋区	114,486	11,432	13,986	117,335	6,817	3,820	4,536
高島平地域	6,800	1,133	8,402	8,894	681	223	394

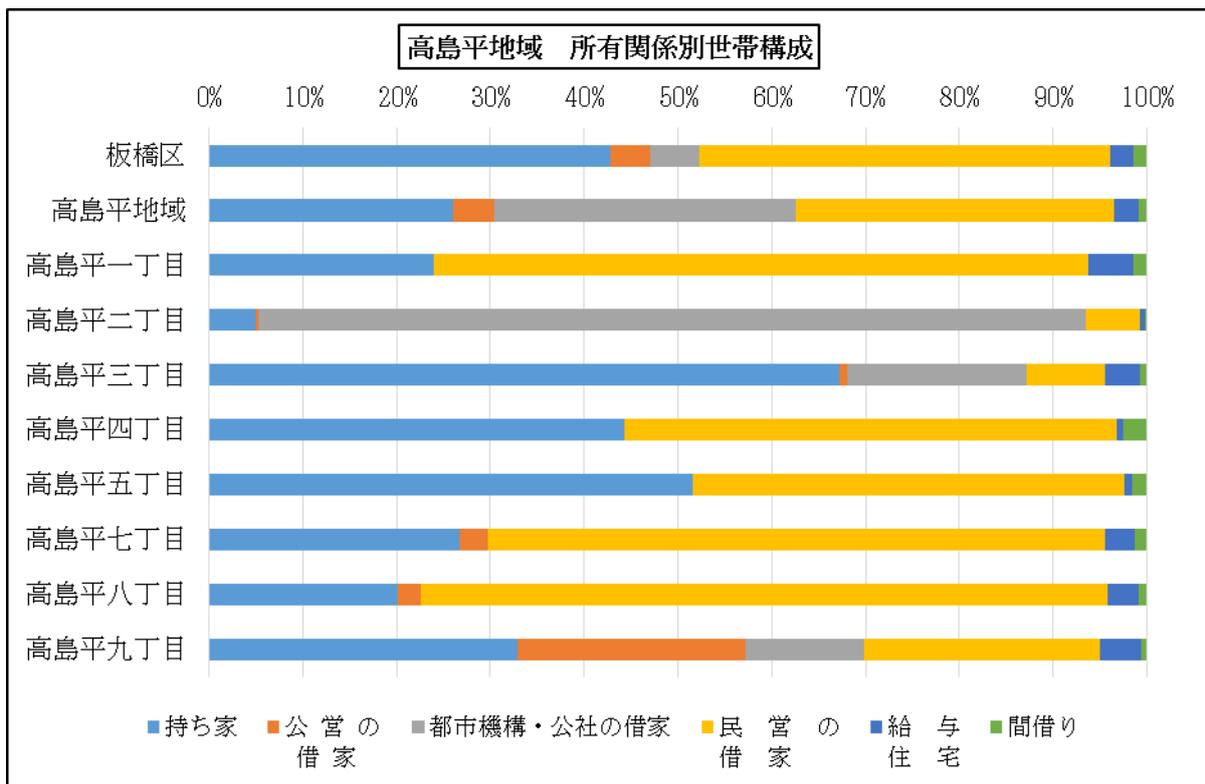


出典：平成 22 年国勢調査

- ・町丁目別に所有関係別の構成をみると、高島平二丁目の約 90%が「都市機構・公社の借家」、高島平三丁目は約 70%が「持ち家」となっています。そのほか、高島平一丁目、七丁目、八丁目は「民間の借家」が多く、高島平四丁目、五丁目では「持ち家」と「民間の借家」が概ね同数程度となっています。

表・グラフ：住宅の所有関係別町丁目別世帯数

	総数	持ち家	公 営 の 借 家	都市機構・ 公社の借家	民 営 の 借 家	給 与 住 宅	間借り
板橋区	267,876	114,486	11,432	13,986	117,335	6,817	3,820
高島平地域	26,133	6,800	1,133	8,402	8,894	681	223
高島平一丁目	4,267	1,025	0	0	2,977	203	62
高島平二丁目	8,372	415	24	7,386	487	39	21
高島平三丁目	2,739	1,840	26	521	230	103	19
高島平四丁目	889	394	0	0	466	7	22
高島平五丁目	1,498	773	0	0	689	12	24
高島平七丁目	2,575	687	80	0	1,692	84	32
高島平八丁目	1,866	376	46	0	1,365	62	17
高島平九丁目	3,927	1,290	957	495	988	171	26



出典：平成 22 年国勢調査（高島平六丁目はデータがないため記載していない）

- ・所有関係別の1世帯あたりの人員をみると、「持ち家」では世帯あたり2人以上ですが、「都市機構・公社の借家」、「民営の借家」については2人未満となっている町丁目が多くなっています。
- ・特にUR都市機構の賃貸住宅のある高島平二丁目においては、世帯あたり1.7人と最も低くなっています。

表：住宅の所有関係別1世帯あたり人員

	1世帯あたり人員	1世帯あたり人員					
		持ち家	公営の借家	都市機構・公社の借家	民営の借家	給与住宅	間借り
板橋区	2.0	2.4	2.0	1.9	1.5	2.2	1.9
高島平地域	1.9	2.4	1.9	1.7	1.7	2.1	1.9
高島平一丁目	1.9	2.5	-	-	1.6	2.1	1.7
高島平二丁目	1.7	2.7	1.0	1.6	1.8	2.4	1.4
高島平三丁目	2.2	2.2	2.2	1.9	2.4	2.4	1.8
高島平四丁目	2.0	2.7	-	-	1.4	1.4	1.9
高島平五丁目	2.1	2.6	-	-	1.4	1.6	2.5
高島平七丁目	1.9	2.5	2.3	-	1.6	1.9	2.3
高島平八丁目	2.0	2.3	3.3	-	1.8	2.3	1.5
高島平九丁目	2.0	2.4	1.8	1.9	1.9	2.0	1.8

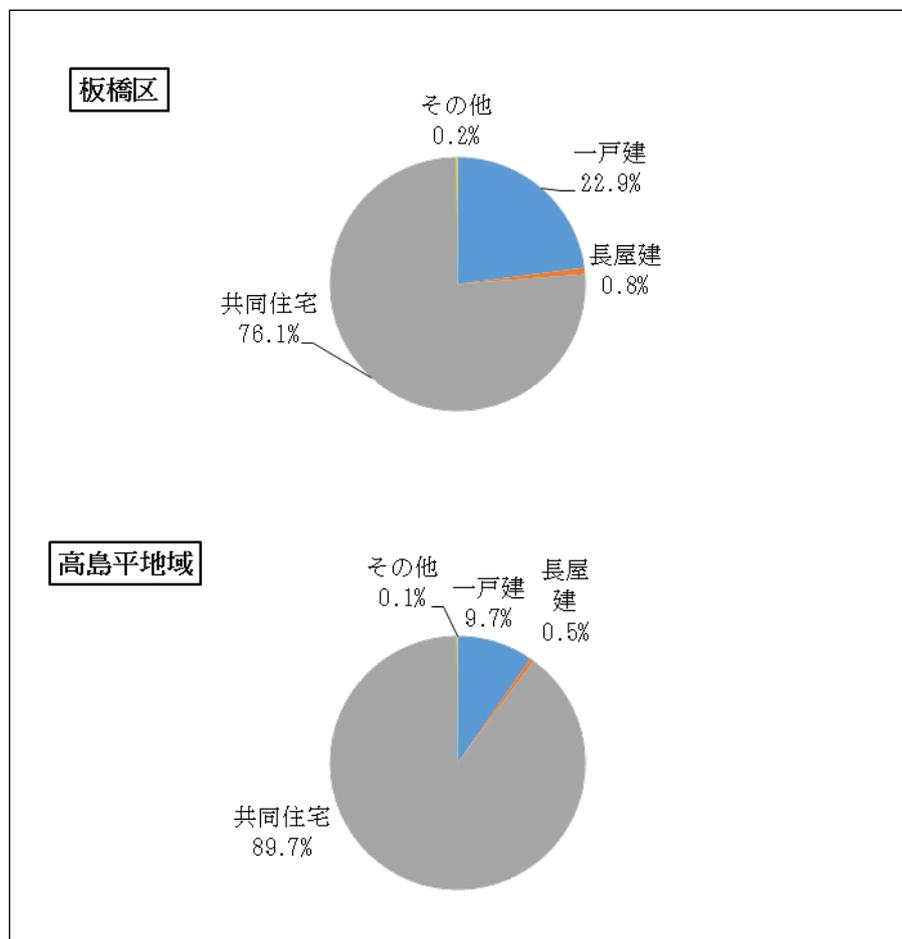
出典：平成22年国勢調査（高島平六丁目はデータがないため記載していない）

(2)住宅の建て方別一般世帯数

- ・住宅の建て方別世帯数をみると、板橋区では「共同住宅」に暮らす世帯が最も多く76.1%を占め、「一戸建」に暮らす世帯は22.9%となっています。
- ・高島平地域では「共同住宅」に暮らす世帯が区平均よりも多く約9割（89.7%）が共同住宅に暮らしています。なお、「一戸建」に暮らす世帯は1割に達していません。（9.7%）。

表・グラフ：住宅の建て方別世帯数

	一戸建	長屋建	共同住宅	その他
板橋区	60519	2152	200879	493
高島平地域	2501	129	23245	35

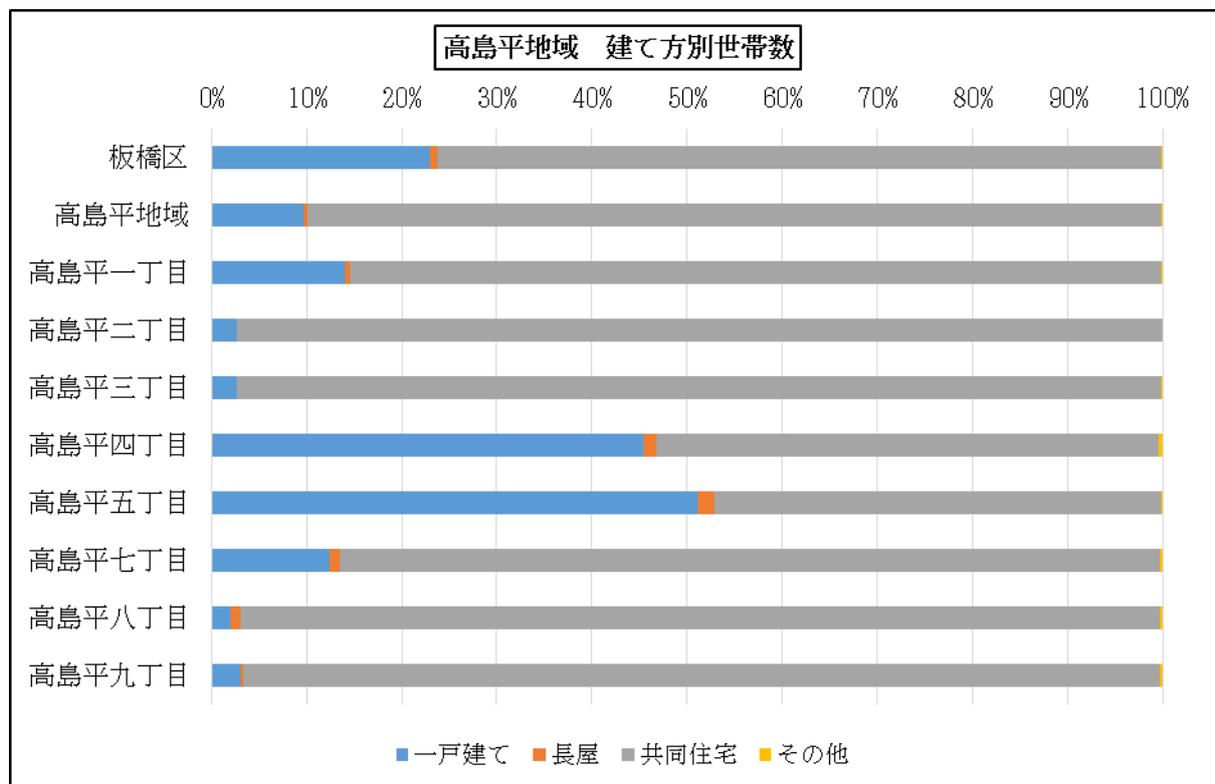


出典：平成22年国勢調査

- ・町丁目別に建て方別の構成をみると、高島平四丁目、五丁目の約 50%が「一戸建て」となっており、区平均よりも「一戸建て」に暮らす世帯が多くなっています。
- ・その他では、「共同住宅」が多く、特に高島平団地のある高島平二丁目、三丁目は90%強が「共同住宅」に暮らす世帯となっています。

表・グラフ：住宅の建て方別世帯数

	総数	一戸建て	長屋	共同住宅	その他
板橋区	267,876	60519	2152	200879	493
高島平地域	26,133	2501	129	23245	35
高島平一丁目	4,267	590	26	3583	6
高島平二丁目	8,372	218	10	8123	0
高島平三丁目	2,739	71	2	2644	3
高島平四丁目	889	394	12	458	3
高島平五丁目	1,498	753	26	693	2
高島平七丁目	2,575	317	26	2192	8
高島平八丁目	1,866	37	20	1788	4
高島平九丁目	3,927	121	7	3764	9



出典：平成 22 年国勢調査（高島平六丁目はデータがないため記載していない）

- ・住宅の建て方別の1世帯あたりの人員をみると、「一戸建て」では世帯あたり2.5～3.1人以上ですが、「共同住宅」ではほとんどの町丁目で2人未満となっています。
- ・「共同住宅」については、建物全体の階数が高いほうが世帯あたりの人員は多くなる傾向にあります。

表：住宅の建て方別1世帯あたり人員

	一戸建て	長屋	共同住宅	(建物全体の階数)1・2階建	(建物全体の階数)3～5階建	(建物全体の階数)6～10階建	(建物全体の階数)11階建以上	その他
板橋区	2.6	1.8	1.8	1.3	1.7	2.1	2.0	2.0
高島平地域	2.8	1.8	1.8	1.4	1.8	2.1	1.8	1.9
高島平一丁目	2.7	1.7	1.7	1.2	1.7	2.0	2.0	2.2
高島平二丁目	3.1	1.6	1.7	1.7	1.8	3.0	1.6	-
高島平三丁目	3.0	3.0	2.1	1.5	2.3	2.4	2.0	3.3
高島平四丁目	2.7	1.4	1.4	1.4	1.3	-	-	1.3
高島平五丁目	2.7	2.5	1.4	1.4	1.6	1.1	-	1.0
高島平七丁目	2.9	1.5	1.7	1.4	1.8	2.1	-	1.4
高島平八丁目	2.9	1.8	1.9	1.5	1.8	2.2	2.2	1.8
高島平九丁目	2.9	1.6	2.0	1.4	1.9	2.1	2.0	2.3

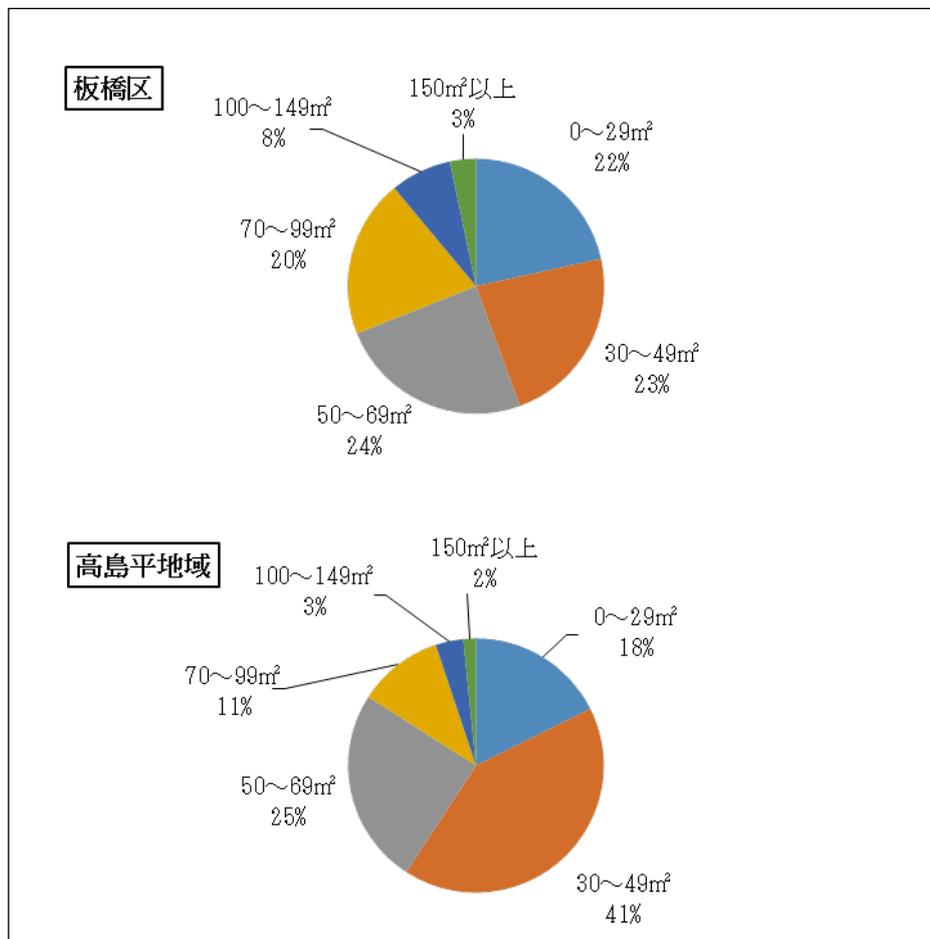
出典：平成22年国勢調査（高島平六丁目はデータがないため記載していない）

(3)住宅の延べ面積別一般世帯数

- ・住宅の延べ面積別世帯数をみると、板橋区では「0～29㎡」、「30～49㎡」、「50～69㎡」、「70～99㎡」と4区分とも約20%ずつとなっています。
- ・一方、高島平地域では「30～49㎡」、「50～69㎡」の規模の住宅が多く、比較的大きな70㎡以上の住宅は区平均よりも少なくなっています。

表・グラフ：住宅の延べ面積別世帯数

	0～29㎡	30～49㎡	50～69㎡	70～99㎡	100～149㎡	150㎡以上
板橋区	57752	61265	65715	53667	20682	8779
高島平地域	4609	10855	6508	2829	919	413

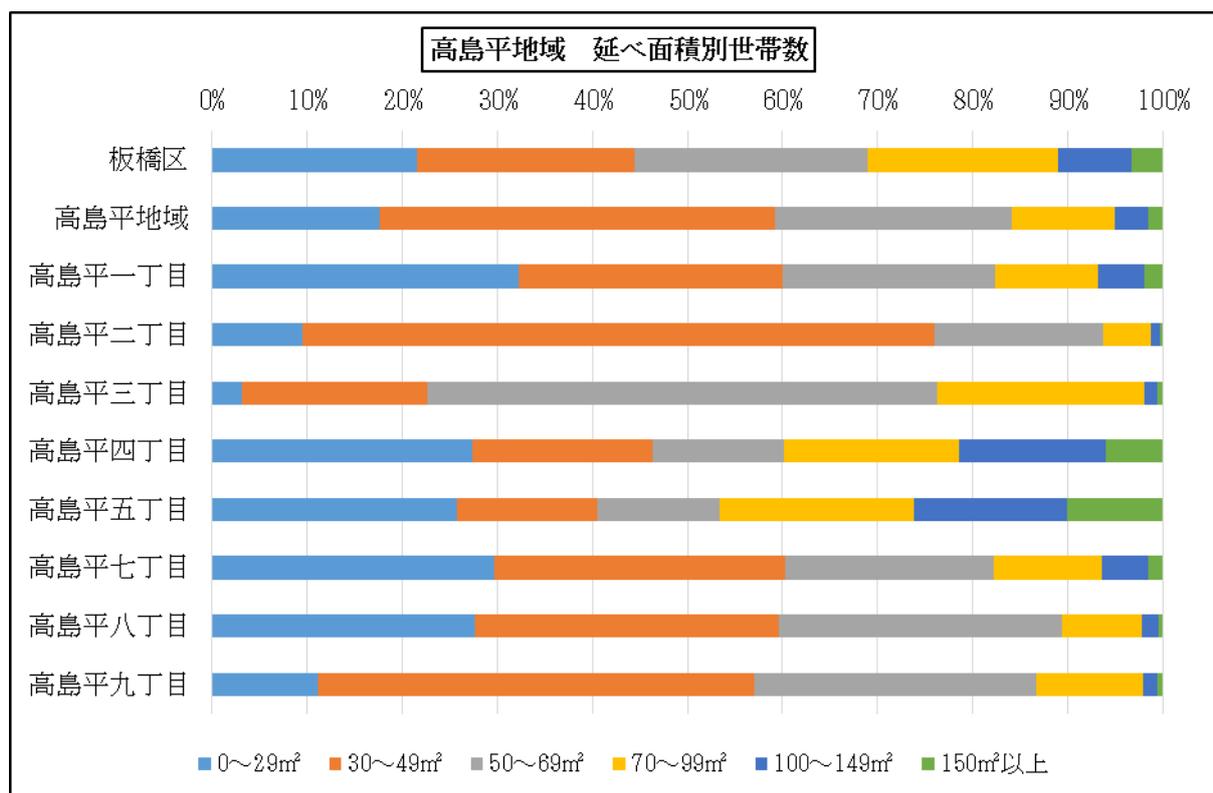


出典：平成22年国勢調査

- ・町丁目別に住宅の延べ面積別世帯数をみると、「共同住宅」が多い町丁目では69㎡以下の住宅が多くなっています。
- ・一方、高島平四丁目、五丁目の「一戸建て」が多い町丁目では、比較的大きな70㎡以上の住宅が多くなっています。

表・グラフ：住宅の延べ面積別世帯数

	総数	0～29㎡	30～49㎡	50～69㎡	70～99㎡	100～149㎡	150㎡以上
板橋区	267876	57752	61265	65715	53667	20682	8779
高島平地域	26133	4609	10855	6508	2829	919	413
高島平一丁目	4267	1376	1182	956	460	208	85
高島平二丁目	8372	802	5564	1477	416	81	32
高島平三丁目	2739	88	532	1469	595	40	15
高島平四丁目	889	244	168	123	163	137	54
高島平五丁目	1498	385	221	194	306	241	151
高島平七丁目	2575	763	788	567	291	125	41
高島平八丁目	1866	516	597	555	157	31	10
高島平九丁目	3927	435	1803	1167	441	56	25



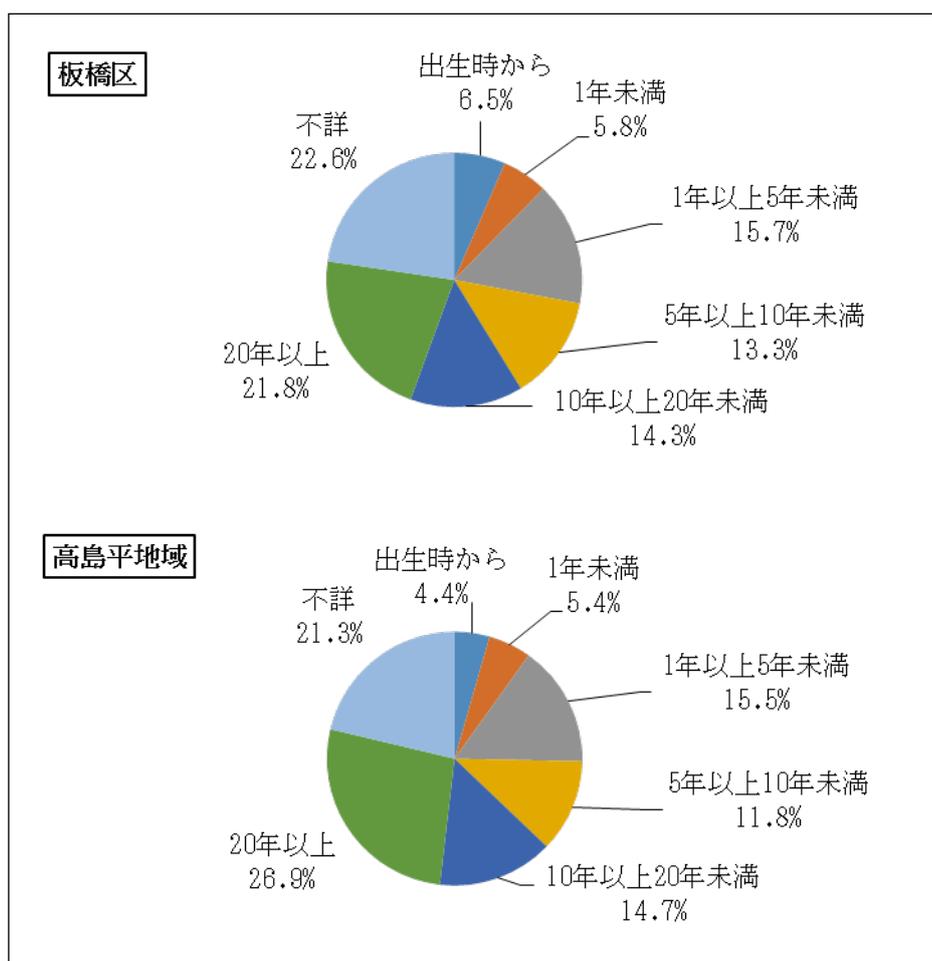
出典：平成22年国勢調査（高島平六丁目はデータがないため記載していない）

(4) 現住居での居住期間

- ・現住所での居住期間をみると「20年以上」が最も多く、次いで「10年以上20年未満」が多くなっています。
- ・10年以上現住居で居住している人は、板橋区では36.1%、高島平地域では41.6%となっており、高島平地域では区平均よりも長く当地に暮らしている人が多くなっています。
- ・「出生時から」暮らしているという人は、板橋区では6.5%、高島平地域では4.4%となっており、高島平地域の方が少なくなっています。

表・グラフ：現住居での居住期間別人口

	出生時から	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	不詳
板橋区	34761	30969	84170	71259	76479	116831	121355
高島平地域	2222	2726	7765	5943	7365	13493	10679

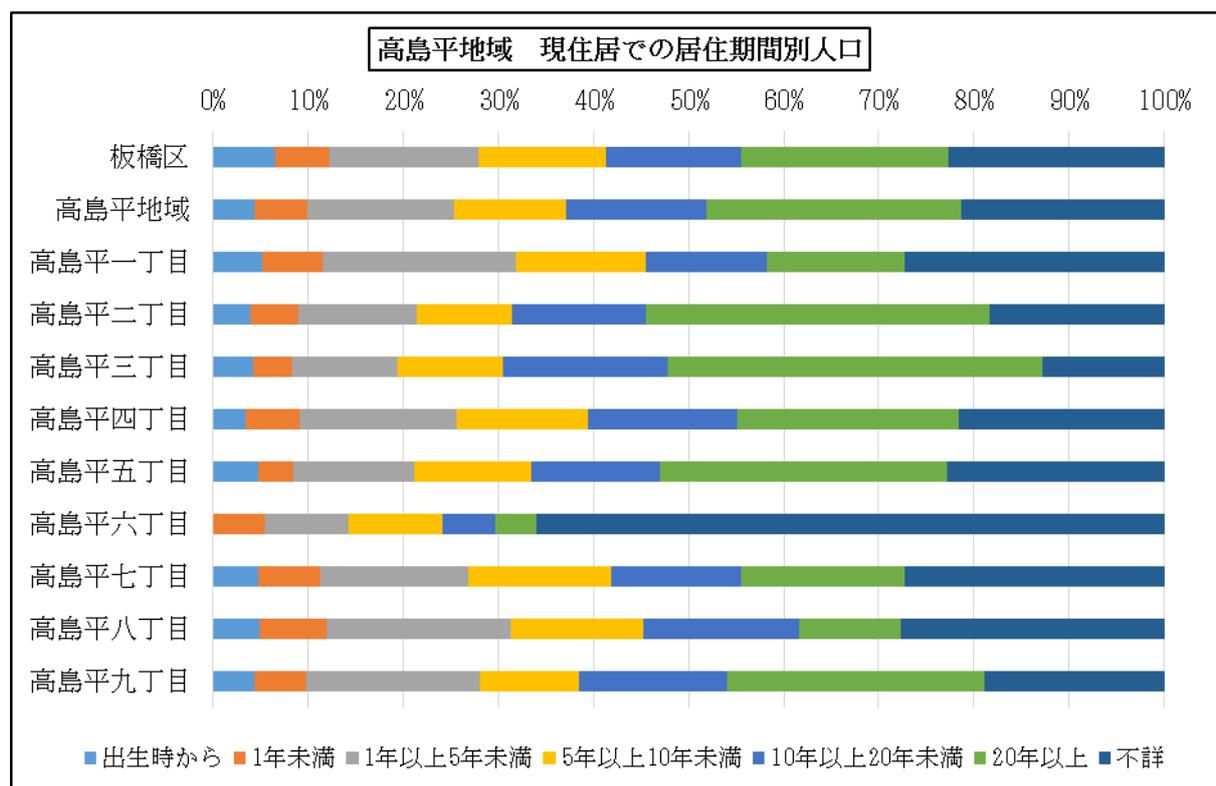


出典：平成22年国勢調査

- ・町丁目別に居住期間をみると、「20年以上」と居住期間が長い人が多いのは、高島平二丁目、三丁目、九丁目で30%前後を占めています。
- ・高島平一丁目、八丁目では、「1年以上5年未満」が多く、比較的居住期間が短い人が多くなっています。

表・グラフ:現住居での居住期間別人口

	総数	出生時から	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	不詳
板橋区	535824	34761	30969	84170	71259	76479	116831	121355
高島平地域	50193	2222	2726	7765	5943	7365	13493	10679
高島平一丁目	8108	418	522	1639	1109	1038	1170	2212
高島平二丁目	14281	572	711	1773	1427	2021	5152	2625
高島平三丁目	5985	250	244	665	665	1040	2359	762
高島平四丁目	1784	60	103	295	245	280	415	386
高島平五丁目	3098	149	111	397	381	418	936	706
高島平六丁目	91	0	5	8	9	5	4	60
高島平七丁目	4965	234	327	768	747	678	855	1356
高島平八丁目	3761	187	262	730	524	613	402	1043
高島平九丁目	8120	352	441	1490	836	1272	2200	1529

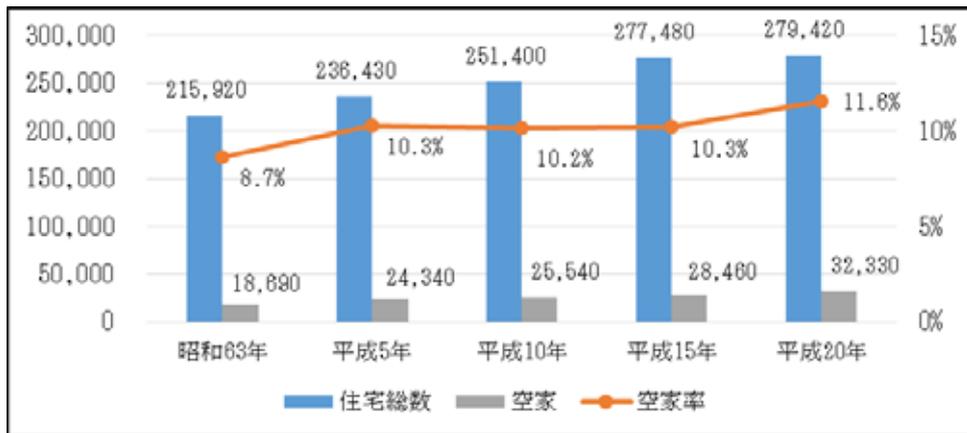


出典：平成22年国勢調査

(5)板橋区の空家数の推移

- ・住宅・土地統計調査によると、平成 20 年の板橋区の住宅総数は、279,420 戸となっており、平成 15 年の 277,480 戸から約 2,000 戸増加しています。
- ・空家数は、32,330 戸となっており、空家率をみると、平成 20 年は 11.6% (32,330 戸) で平成 15 年から 1.3 ポイント増加しており、区部平均と同程度の水準となっています。
- ・空家の種類は、賃貸用の住宅が最も多く、66.1% (21,370 戸) となっています。

グラフ：板橋区 住宅総数と空家数



出典：住宅・土地統計調査

表：23区 空家数および空家率

順位	区	空家総数 (戸)	空家率
1	千代田区	8,380	25.8%
2	中央区	24,230	25.4%
3	目黒区	27,720	16.3%
4	台東区	15,200	15.1%
5	渋谷区	20,250	13.7%
6	豊島区	21,680	12.9%
7	荒川区	13,770	12.8%
8	新宿区	27,210	12.6%
9	足立区	38,730	12.5%
10	大田区	43,700	12.2%
11	葛飾区	24,130	11.8%
12	品川区	24,890	11.7%
13	板橋区	32,330	11.6%
	特別区部	544,760	11.3%
14	杉並区	32,690	10.3%
15	北区	19,110	10.3%
16	文京区	11,580	10.2%
17	練馬区	33,280	10.0%
18	港区	13,920	9.9%
19	江戸川区	29,920	9.5%
20	中野区	17,500	9.1%
21	墨田区	11,430	9.1%
22	江東区	18,320	8.3%
23	世田谷区	34,790	7.6%

出典：住宅・土地統計調査

表：板橋区 空家の種類

総数	二次的住宅	賃貸用の住宅	売却用の住宅	その他の住宅	不明
32,330	430	21,370	1,620	8,900	10
100.0%	1.3%	66.1%	5.0%	27.5%	0.1%

出典：住宅・土地統計調査

二次的住宅：週末や休暇時に使用される住宅で、普段は人が住んでいない住宅、普段住んでいる住宅とは別に残業で遅くなったりするときに寝泊りするなど、たまに寝泊りする人がいる住宅
 その他の住宅：転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在や、建替え等のために取り壊すことになっている住宅など

(6)居住地に関する意識調査

平成 25 年度 板橋区区民意識意向調査(抜粋)

- ・当該調査は、区政全般に対し、区民の意識や意向、区の施策に対する満足度等を捉え、現基本計画の成果指標である区民満足度の平成 25 年度時点における数値を補足するとともに、平成 28 年度を初年度とする新たな基本計画を策定するための基礎資料とすることを目的としています。
- ・調査の実施方法は次のようになっています。

表：調査の実施方法

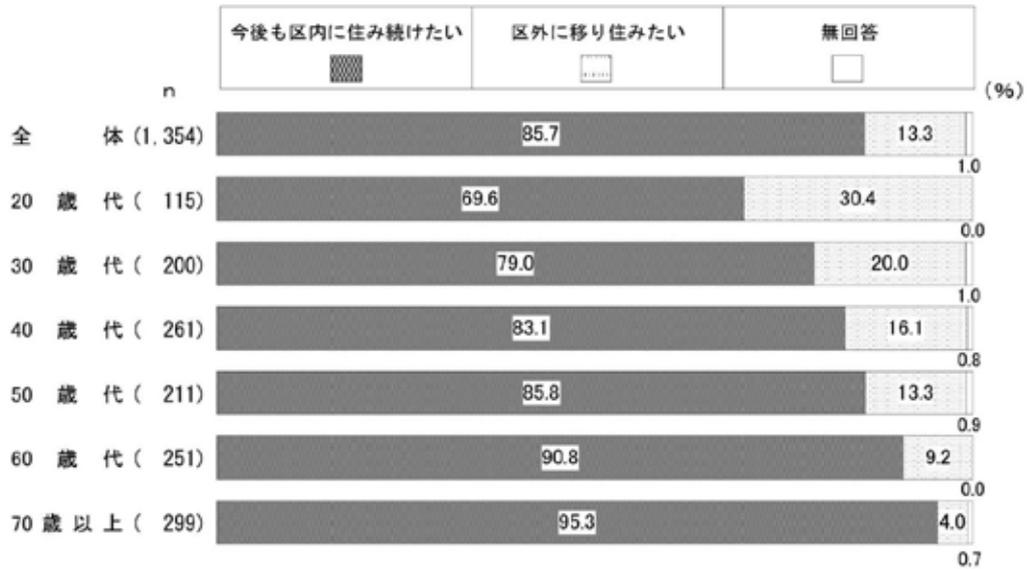
調査対象	20 歳以上の板橋区民 3,000 人 住民基本台帳から無作為抽出（板橋、常盤台、志村、赤塚、高島平の 5 地域ごとの登録人口規模で 3,000 人を按分抽出）
調査方法	調査票の配布・回収ともに郵送
調査期間	平成 25 年 9 月 21 日(土)～10 月 7 日(月)
回収結果	配布数：3,000 有効回収数：1,354 回収率：45.1%

- ・当該調査の中に「定住意向」についての設問があり、次のような結果を得ています。

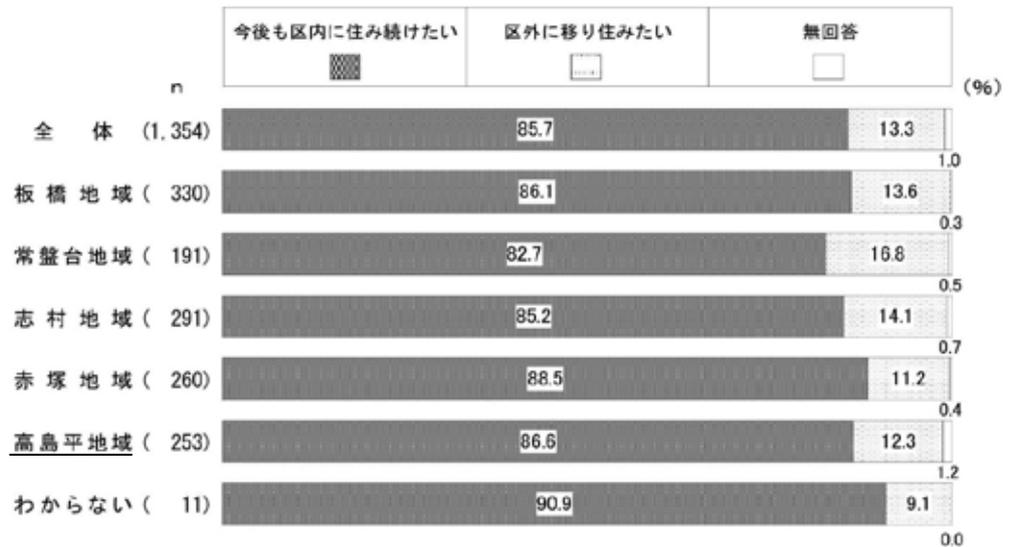
ア 「今後も区内に住み続けたい」は区全体では約 85%



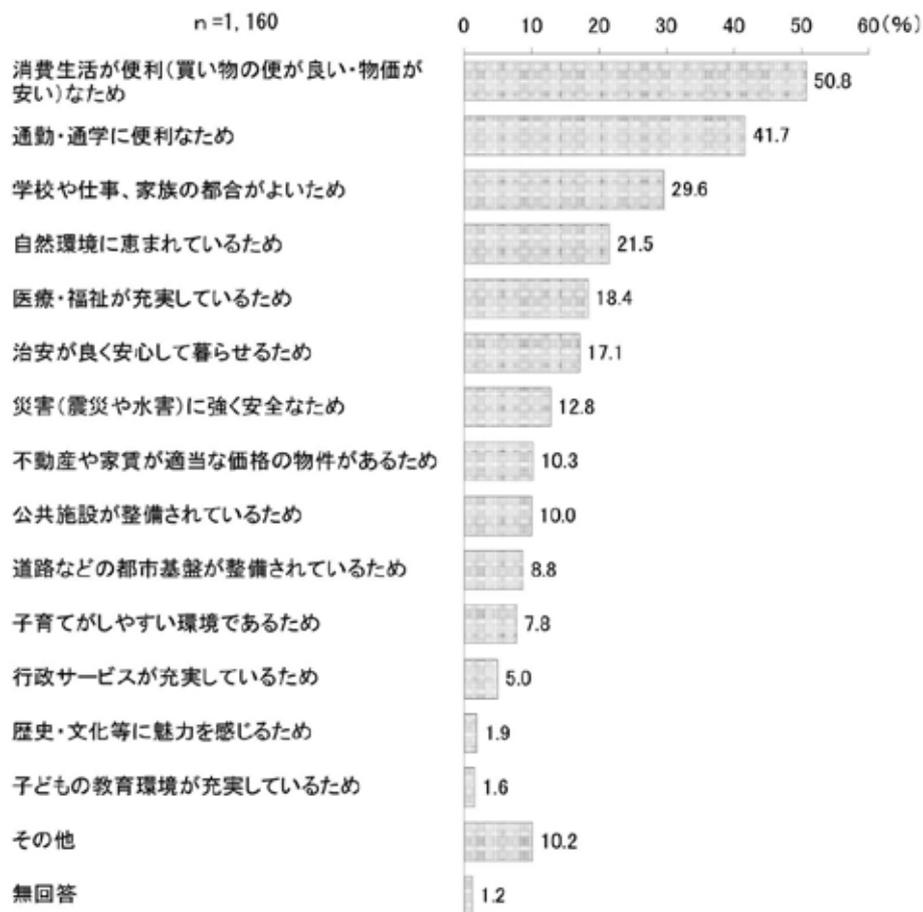
ア-1 年代別にみると「今後も区内に住み続けたい」は年齢が上がるほど高い



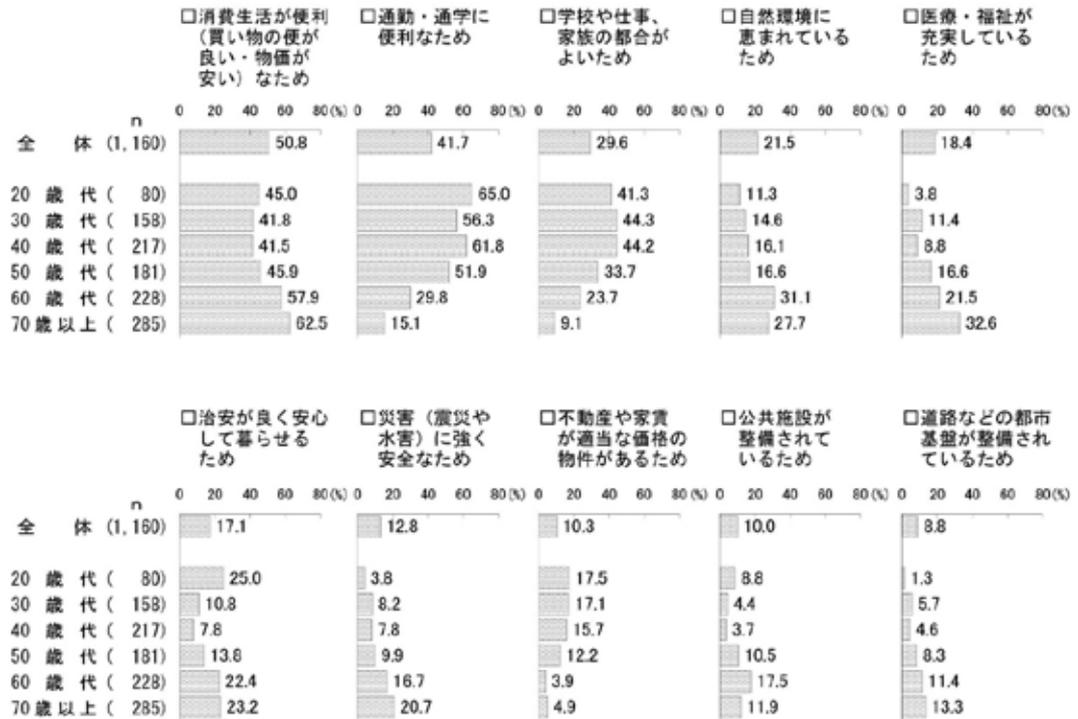
ア-2 地域別にみると高島平地域では「今後も区内に住み続けたい」意向は高い



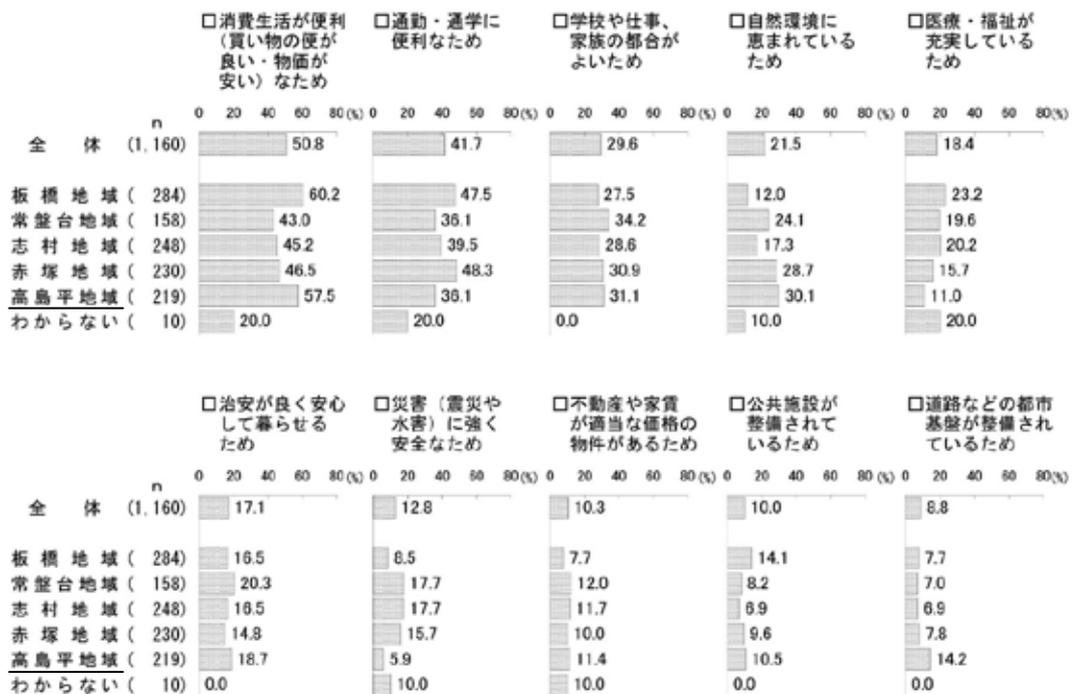
イ 区内に住み続けたい理由は「消費生活が便利のため」が区全体では約 50%



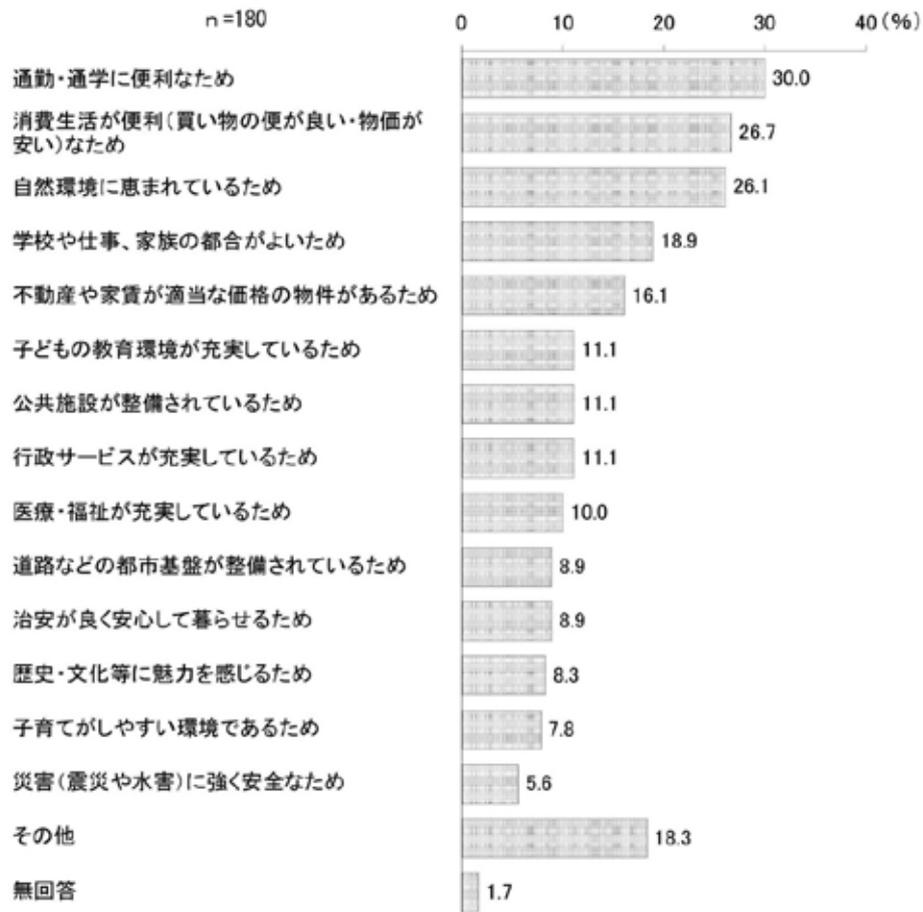
イ-1 年代別にみると比較的若い世代は「消費生活が便利のため」、高齢世代は「自然環境に恵まれているため」が多い



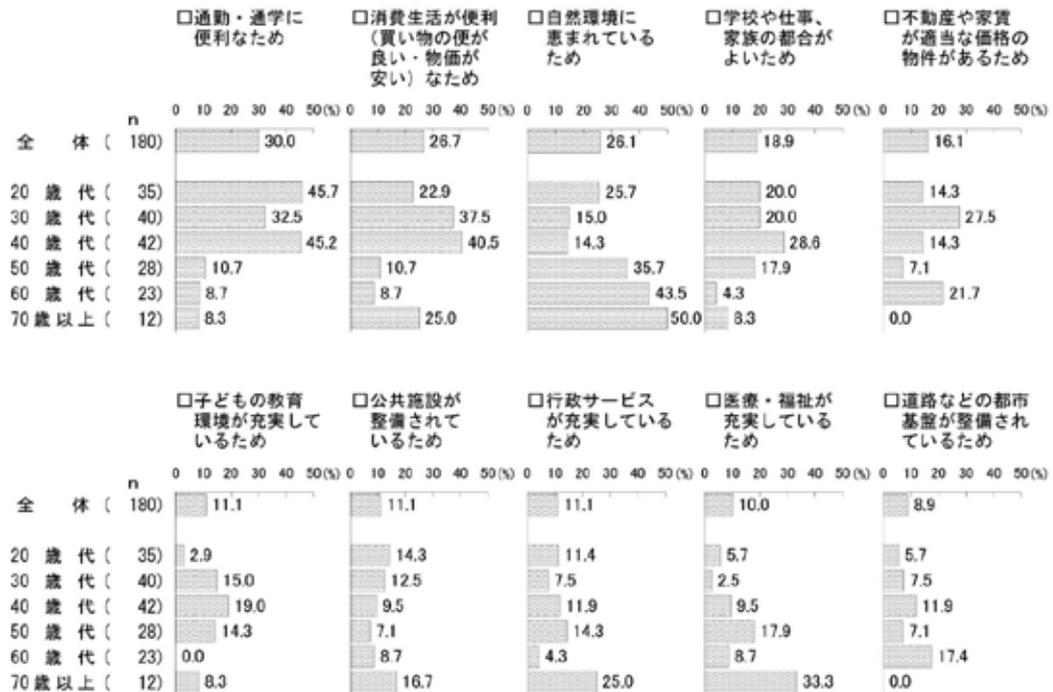
イ-2 地域別にみると高島平地域では「消費生活が便利のため」住み続けたいという意向が高い



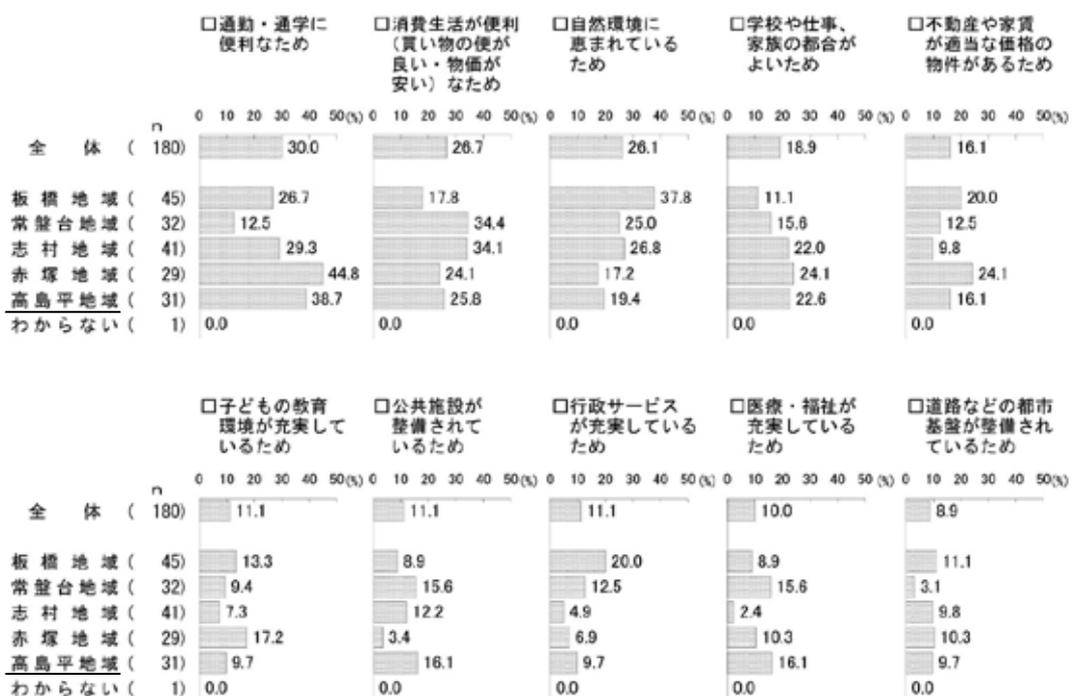
ウ 区外に移り住みたい理由は「通勤・通学に便利のため」が区全体では30%



ウ-1 年代別にみると比較的若い世代は区外の方が「消費生活が便利のため」、高齢世代は区外の方が「自然環境に恵まれているため」や「医療福祉が充実しているため」が多い



ウ-2 地域別にみると高島平地域では「消費生活が便利のため」区外に移り住みたいという回答が多い



一番住んでみたい街ランキング（株マクロミル調査(抜粋)）

- ・当該調査は、20～59才の関東地区居住者（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）9,008人及び関西地区居住者（大阪府・京都府・兵庫県）3,760人に対して実施した調査です。
- ・調査の実施方法は次のようになっています。

表：調査の実施方法

調査対象	20～59歳の男女 関東地区（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県） 関西地区（大阪府・京都府・兵庫県）
調査方法	インターネットリサーチ
調査期間	平成22年12月11日(土)～12月19日(日)

ア 住んでみたい街(上位20位・複数回答)

- ・関東地区に居住する男女に「住んでみたいと思う街」を駅名でたずねたところ、1位は「吉祥寺（12.3%）」で、2位以下に5ポイント以上の差をつけている。2位は「恵比寿（6.6%）」、3位「横浜（6.2%）」となっている。

表：住んでみたい街(上位20位・複数回答)

全体 (n=9,008)									
順位	駅名	(%)	(人)	昨年順位	順位	駅名	(%)	(人)	昨年順位
1	吉祥寺	12.3%	1,106	1	11	高円寺	3.1%	277	14
2	恵比寿	6.6%	592	4	11	下北沢	3.1%	277	11
3	横浜	6.2%	562	2	13	新宿	3.0%	269	13
4	自由が丘	5.0%	453	3	14	中目黒	2.6%	235	8
5	目黒	4.2%	377	7	15	渋谷	2.5%	226	17
6	池袋	3.6%	326	10	16	三鷹	2.4%	216	18
7	鎌倉	3.6%	325	5	17	たまプラーザ	2.1%	192	-
8	品川	3.5%	313	6	18	荻窪	2.1%	190	-
9	二子玉川	3.2%	286	8	19	武蔵小杉	2.1%	185	-
10	中野	3.1%	279	12	20	三軒茶屋	2.0%	183	15

※「-」は昨年21位以下を示しています。

イ 住んでみたい街 / 性年代別(上位 10 位・複数回答)

- ・男女別、年代別にみると、「吉祥寺」はいずれもトップとなっており、幅広い層から「吉祥寺」が支持されている。
- ・2位以降の特徴をみると、男性では若年層ほど「池袋」の人气が高く、20代男性では2位(7.8%)に入っている。住みたい理由には、「交通の便がいい」、「便利」、「商業施設が充実している」という声が挙がっている。
- ・女性ではいずれの年代においても「下北沢」がランクインしている。住みたい理由としては、「都心に近い」、「おしゃれ」、「楽しそう」という意見があった。
- ・性年代別にみると、女性40~50代では他の年代に比べて「たまプラーザ」が、また、男性40~50代、女性30~50代では「二子玉川」の人气が高くなっている。2つの街に共通して「おしゃれ」、「開発が進んで買い物が便利」という理由が挙がっており、再開発された街に注目が集まっている。

表：住んでみたい街 / 性年代別(上位 10 位・複数回答)

順位	男性20代			順位	男性30代			順位	男性40代			順位	男性50代		
	n=1,090	(%)	(人)		n=1,187	(%)	(人)		n=1,163	(%)	(人)		n=1,154	(%)	(人)
1	吉祥寺	13.3%	145	1	吉祥寺	9.4%	112	1	吉祥寺	8.9%	104	1	吉祥寺	8.2%	95
2	池袋	7.8%	85	2	恵比寿	6.2%	74	2	横浜	5.2%	61	2	横浜	5.6%	65
3	恵比寿	7.1%	77	3	池袋	5.1%	60	3	自由が丘	4.9%	57	3	鎌倉	4.7%	54
4	横浜	6.7%	73	4	横浜	5.0%	59	4	恵比寿	4.0%	47	4	恵比寿	4.4%	51
5	新宿	6.1%	67	5	目黒	4.5%	53	5	品川	3.5%	41	5	自由が丘	3.9%	45
6	品川	4.8%	52	6	自由が丘	4.0%	47	6	新宿	3.4%	40	6	目黒	3.3%	38
7	中野	4.7%	51	7	品川	3.4%	40	7	鎌倉	3.3%	38	7	品川	2.9%	33
8	高円寺	4.6%	50	8	新宿	3.3%	39	8	二子玉川	3.0%	35	8	高円寺	2.8%	32
8	秋葉原	4.6%	50	9	中野	3.0%	36	9	池袋	2.9%	34	8	二子玉川	2.8%	32
10	上野	4.0%	44	9	秋葉原	3.0%	36	10	目黒	2.7%	31	8	国立	2.8%	32

順位	女性20代			順位	女性30代			順位	女性40代			順位	女性50代		
	n=1,042	(%)	(人)		n=1,108	(%)	(人)		n=1,160	(%)	(人)		n=1,104	(%)	(人)
1	吉祥寺	16.7%	174	1	吉祥寺	15.1%	167	1	吉祥寺	12.2%	142	1	吉祥寺	15.1%	167
2	恵比寿	8.7%	91	2	恵比寿	9.7%	107	2	自由が丘	5.9%	69	2	横浜	8.2%	91
3	横浜	6.6%	69	3	横浜	7.1%	79	3	横浜	5.6%	65	3	恵比寿	7.4%	82
4	池袋	6.4%	67	4	自由が丘	6.5%	72	4	恵比寿	5.4%	63	4	自由が丘	6.7%	74
5	自由が丘	5.4%	56	5	目黒	4.8%	53	5	鎌倉	4.5%	52	5	目黒	6.0%	66
6	高円寺	5.0%	52	6	鎌倉	4.6%	51	6	二子玉川	4.1%	47	6	鎌倉	5.8%	64
6	下北沢	5.0%	52	7	二子玉川	4.2%	46	7	目黒	3.7%	43	7	二子玉川	4.7%	52
8	目黒	4.8%	50	8	中目黒	4.1%	45	8	品川	3.0%	35	8	下北沢	4.1%	45
8	中野	4.8%	50	9	品川	3.7%	41	8	たまプラーザ	3.0%	35	8	たまプラーザ	4.1%	45
10	中目黒	4.2%	44	10	下北沢	3.4%	38	10	下北沢	2.7%	31	10	品川	3.5%	39

ウ 住んでみたい理由

- ・圧倒的人気の「吉祥寺」を挙げた人の理由をみると、「都心に近い」、「買い物が便利」といった利便性の高さだけではなく「自然が多い」や「おしゃれな街だから」といった理由を挙げる人が多いことも吉祥寺の特徴と言える。

表：住んでみたい理由(自由回答)

街	住んでみたい理由	性別	年齢	居住地
吉祥寺	自然が多く静かで都心にも近い。お手ごろな飲食店も多く、若者も多く活気がある。	男性	27	東京都
	買い物が便利、公共施設も充実している。交通も便利。	男性	39	東京都
	おしゃれな店もあり、静かな住宅街もあり、物価も安い。この街だけで全て揃う感じがするから。人気の街だけあって、飲食店などのお店のレベルも全体的に高い。	女性	30	東京都
	交通が便利。駅前の街のごちゃごちゃ感がいい。個性的な店が多い。古い店と新しい店が混在していていい。ちょっと行くと自然があって閑静な住宅街があっていい。	女性	42	東京都
恵比寿	山手線沿線という抜群の利便性とキレイな町並み、イメージの良さ。	男性	35	東京都
	交通の便がよく、素敵な飲食店が充実しているから。	女性	34	東京都
	都心の便利なエリアだけど、完全なオフィス街ではない。	女性	36	兵庫県
横浜	おしゃれ、交通アクセスが良い、都会過ぎず田舎でもなく。	男性	26	神奈川県
	都心に近く、街もきれいだしおしゃれであこがれる。	女性	27	東京都
	観光名所もあり、景色も良い。美味しいものも多く、人の流れも多い。	女性	45	埼玉県
自由が丘	環境が良い。何処に行くのも便利。	男性	40	東京都
	街並みがきれいで交通や買い物、病院等に不自由しなさそうだから。	女性	27	千葉県
	駅の周辺に飲食店やおしゃれなショップが多いわりに、閑静な住宅街が多いので。	女性	44	埼玉県
目黒	自然が豊か。都心へのアクセスがいい。	男性	27	東京都
	閑静な住宅地だから。	女性	45	東京都
池袋	交通の便が良い。家電製品や書籍に関するお店が充実している。	男性	21	埼玉県
	都心中心部であり、実家へも帰りやすいので。	女性	36	東京都
鎌倉	歴史がある街で、海と山が近接した環境が好ましい。また都心までの便が良い。	男性	51	東京都
	閑静で散歩するところが豊富でおいしい物もいっぱいある。	女性	57	神奈川県
品川	都会。交通アクセスが良い。通勤に便利。	男性	26	神奈川県
	再開発が進んで、非常に便利だから。	女性	50	東京都
玉川子	必要な環境が整っているから。	男性	42	東京都
	都心に近く川もあり自然豊か。	女性	40	東京都
中野	程よく近代的、程よく古くといった町並みが好きのため。	男性	32	東京都
	都内にしては割と低価格で住めそう。	女性	24	埼玉県

エ 注目している街

- ・関東地区に居住している人に「東京で注目している街」をたずねたところ、1位「吉祥寺」、2位「自由が丘」と住みたい街で人気の街が上位2位となった。3位には「浅草」、4位は「二子玉川」、5位は東京スカイツリー近辺の「押上・業平橋」となっている。

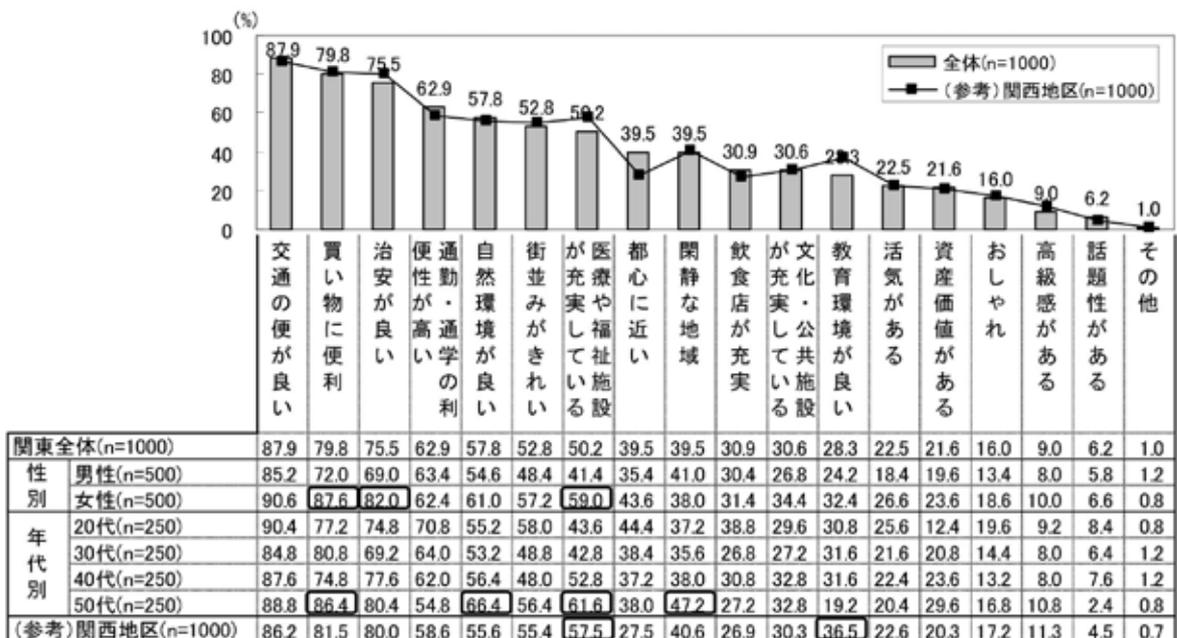
表：注目している理由(自由回答)

街	注目している理由	性別	年齢	居住地
吉祥寺	今1番注目されると言っても過言ではない駅 全てのニーズに応えてくれる場所。	男性	34	東京都
	買い物に便利でありながら自然が多い。	男性	41	東京都
	いつも住みたい街ランキングとかで1位になっているので、気になっている。	女性	20	東京都
	いつも買い物や散歩などで行くが、飽きない。ほどよくお洒落だが気張らない。ファッションから食料品や銀行など、なんでも用を済ませられる。	女性	30	東京都
自由が丘	飲食店(特にスイーツ)のお店多いから。	男性	25	神奈川県
	オシャレなイメージがあって、雑貨屋さんがたくさんあって楽しそう。	女性	23	神奈川県
	最近、子供と行く事が多くなった。大人向け、子供向けのお店が沢山ある。	女性	37	神奈川県
押上・業平橋	東京スカイツリーの最寄り駅で賑わいが増しているから。	男性	26	東京都
	スカイツリーができれば活気がでそうだから。	女性	28	埼玉県
	スカイツリー建設で、大きな複合商業施設が出来るらしく、通い易いので、その辺で転職も考えてる。	女性	41	東京都
浅草	スカイツリーが建って、発展しそうだから。	男性	24	東京都
	元々好きだったが、舞台になっている話を読んだので。	女性	41	神奈川県
	江戸情緒いっぱい。都会の中の下町。隅田川は四季楽しめる。	女性	52	埼玉県
二子玉川	駅前大規模再開発で様々なお店が出店してきている。	男性	43	東京都
	都心に近く都市開発され便利で環境が良く、一箇所ですべてが済みそう。	女性	49	東京都
豊洲	東京23区では大規模商業施設が比較的充実しているから。	男性	23	東京都
	開発が進んで、いろいろな商業施設もでき、町全体がきれいだと思うし、これからももっと発展する気がする。	女性	33	千葉県
下北沢	活気のある町を目指していて、若者、年配者が共生出来る感じがある。	男性	57	神奈川県
	駅の工事で街がどう変わるのかずっと気になっている。	女性	30	東京都
池袋	食事、レジャーいろいろと便利だから。交通の便がいいから。	男性	23	埼玉県
	都会だが高級感なく親しみやすい。	女性	43	埼玉県
新宿	百貨店や家電量販店が多いから。	男性	32	神奈川県
	今、ワンコインなどで飲食できるお店が多いのとバスツアーなどで何処かへ行く際にもここが出発地点になっている。	女性	52	東京都
渋谷	住んでみたいとは思わないが、活気があり、飲食と買い物都非常に楽しそうだから。	男性	40	神奈川県
	最近大きなショップがどんどん変わっていくのが面白い。特にファストファッション。	女性	30	東京都
秋葉原	昔のイメージからの変貌途中の気がするから。	男性	44	東京都
	ここ数年で一番イメージが変わった街だと思う。	女性	29	神奈川県
恵比寿	大きなデパートもあるし、おしゃれで小さな店もあり、美味しい店も多いから。交通の便がよくどこに行くにも便利で、おしゃれなところと下町の雰囲気もあるから。	女性	35	埼玉県
		女性	53	神奈川県

オ 住みたい街を選ぶ重視点

- ・住みたい街を選ぶ際の重視点についてたずねたところ、「交通の便が良い」が87.9%で最も高く、次いで「買い物に便利(79.8%)」、「治安が良い(75.5%)」となっている。
- ・男女別にみると、女性は男性に比べ「買い物に便利」、「治安が良い」、「医療や福祉施設が充実している」が10ポイント以上高くなっている。
- ・年代別にみると、50代は40代以下に比べ「買い物に便利」、「自然環境が良い」、「医療や福祉施設が充実している」、「閑静な地域」が高くなっている。

表・グラフ：住みたい街を選ぶ際の重視点(複数回答)



カ 住みたい街に対する考え方

- ・街の特徴をあげてどのような街に住みたいと思うか「そう思う」～「そう思わない」で回答してもらった結果、関東地区では、「徒歩圏で何でもそろ街に住みたい」と思う（そう思う+ややそう思う）人は、87.0%となった。
- ・続いて、「都心通勤圏内で自然豊かな街に住みたい」は83.7%、「大きな公園のある街に住みたい」は80.0%となっている。

表・グラフ：住みたい街を選ぶ際の重視点(複数回答)

